

狭山丘陵観光連携プラン

平成 31 年 1 月

狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会

目 次

第1章 はじめに	1
1-1. 背景・目的	1
1-2. 構成市町の概要	2
第2章 狭山丘陵の概要	3
2-1. 狭山丘陵の成り立ち	3
2-2. 狭山丘陵・武蔵野台地の地質	4
2-3. 狭山丘陵周辺の歴史	5
2-4. 狭山丘陵における自然公園	7
第3章 狭山丘陵エリアの現状と課題	8
3-1. 国の観光動向	8
3-2. 東京都・埼玉県の観光動向	9
3-3. 狭山丘陵エリアの観光の実態	11
3-4. 狭山丘陵連携における課題	25
第4章 本プランの目指すべき方向性	28
4-1. コンセプト・目指すべき方向性	28
4-2. 基本戦略	29
4-3. 推進体制	31
4-4. 施策体系	32
第5章 観光連携に係る具体的な施策	33
第6章 進捗管理	42

第1章 はじめに

1-1. 背景・目的

狭山丘陵は、埼玉県と東京都の都県境に東西 11km、南北 4km、総面積約 3,500ha の規模で広がる丘陵で、5 市 1 町（東京都武蔵村山市、東大和市、東村山市、瑞穂町、埼玉県所沢市、入間市）に跨っている。

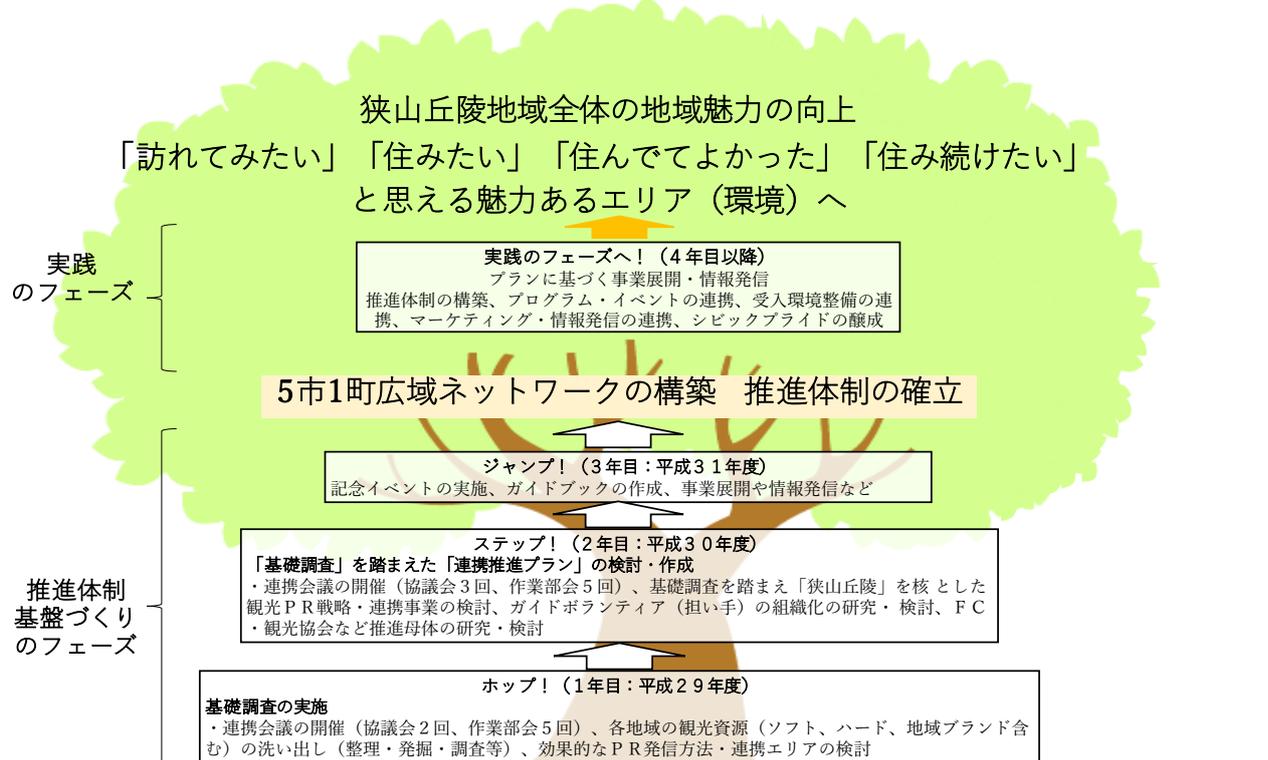
2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けて、訪日外国人の増加が著しく、東京都では目標とする訪都外国人旅行者数を 2020 年 2,500 万人、2024 年 3,000 万人としている。また、「東京の自然公園ビジョン」（東京都環境局 平成 29 年 5 月発行）では、東京の自然公園の目指すべき姿は、自然を守り・育てつつも地域の暮らし（文化・産業等）と繋がりを再生し、さらに観光資源として活用していくこととしている。

実際に全国各地でも、官民の垣根を越えて「地方創生」に関する事業も数多く展開しており、中でも観光まちづくりとして、地域の魅力を引き出すために、地域資源を発掘・磨き上げ・商品化して、それを担う人材育成も実施している。

一方、6 市町に跨る地域資源の狭山丘陵の魅力は、都内の自然公園において最も都心に近い自然公園の一つであり、また、狭山丘陵がもたらす自然の恵みを活かした文化・産業（狭山茶、武蔵野うどん、村山大島紬、東京狭山みかん・多摩湖梨等の味覚狩り）を醸成してきた点、さらには、各 6 市町では狭山丘陵を活かした魅力的なイベントも個別に実施してきている。

こうした魅力ある地域資源や活動内容を 6 市町が広域で連携した取組をすることで、狭山丘陵の魅力をブランド化していくことができ、狭山丘陵周辺地域の「地域魅力」の向上を図ることができると考える。

そこで、本プランは、狭山丘陵地域全体の地域魅力の向上を図り、「訪れてみたい」「住みたい」「住んでよかった」「住み続けたい」と思える魅力あるエリア（環境）を実現していくために、各団体が連携して観光施策を展開することを目的に実施する広域連携事業に係る計画として策定する。



1-2. 構成市町の概要

狭山丘陵を構成する市町の概要を示す。

基本要素	市町名	武蔵村山市	東大和市	東村山市	瑞穂町	所沢市	入間市																																				
人口 (H31.1月末現在)		72,546 人	85,565 人	150,789 人	33,213 人	344,320 人	148,442 人																																				
産業構造 (地域経済システム RESAS より)		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>建設業</td></tr> <tr><td>2</td><td>卸売業、小売業</td></tr> <tr><td>3</td><td>製造業</td></tr> </table>	1	建設業	2	卸売業、小売業	3	製造業	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>卸売業、小売業</td></tr> <tr><td>2</td><td>建設業</td></tr> <tr><td>3</td><td>宿泊業、飲食サービス業</td></tr> </table>	1	卸売業、小売業	2	建設業	3	宿泊業、飲食サービス業	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>卸売業、小売業</td></tr> <tr><td>2</td><td>宿泊業、飲食サービス業</td></tr> <tr><td>3</td><td>建設業</td></tr> </table>	1	卸売業、小売業	2	宿泊業、飲食サービス業	3	建設業	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>製造業</td></tr> <tr><td>2</td><td>卸売業、小売業</td></tr> <tr><td>3</td><td>建設業</td></tr> </table>	1	製造業	2	卸売業、小売業	3	建設業	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>卸売業、小売業</td></tr> <tr><td>2</td><td>建設業</td></tr> <tr><td>3</td><td>宿泊業、飲食サービス業</td></tr> </table>	1	卸売業、小売業	2	建設業	3	宿泊業、飲食サービス業	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>卸売業、小売業</td></tr> <tr><td>2</td><td>製造業</td></tr> <tr><td>3</td><td>建設業</td></tr> </table>	1	卸売業、小売業	2	製造業	3	建設業
1	建設業																																										
2	卸売業、小売業																																										
3	製造業																																										
1	卸売業、小売業																																										
2	建設業																																										
3	宿泊業、飲食サービス業																																										
1	卸売業、小売業																																										
2	宿泊業、飲食サービス業																																										
3	建設業																																										
1	製造業																																										
2	卸売業、小売業																																										
3	建設業																																										
1	卸売業、小売業																																										
2	建設業																																										
3	宿泊業、飲食サービス業																																										
1	卸売業、小売業																																										
2	製造業																																										
3	建設業																																										
観光入込客数		-	-	-	-	5,527,592 人 ※県内市町村観光入込客数より平成 29 年	7,284,125 人 ※県内市町村観光入込客数より平成 27 年																																				
観光の現状	主な観光資源																																										
	ルート	野山北公園自動車道、各種ウォーキングコース	各種ウォーキングコース	各種ウォーキングコース、サイクリングコース	各種ウォーキングコース	各種ウォーキングコース (狭山湖周辺等)	各種ウォーキングコース																																				
	産業	東京狭山茶、ミカン狩り、多摩湖梨狩り	森永乳業 (株) 東京多摩工場、東京狭山茶、多摩湖梨	東村山ブランド「里に八国」、多摩湖梨	東京狭山茶、みずほ育ちのシクラメン、製造業	狭山茶、ぶどう狩り	狭山茶、マイクロテクノロジー																																				
	自然	野山北・六道山公園、あそびの森・冒険の森、花 (カタクリ群生地、桜並木、ひまわりガーデン武蔵村山)	多摩湖 (村山下貯水池)、東大和公園、狭山緑地、玉川上水、野火止用水 (夏のヘイケボタル)	都立八国山緑地、北山公園菖蒲苑、都立狭山公園	さやま花多来里 (かたくり) の郷、六道山公園、狭山池公園、みずほエコパーク、オオタカ、カワセミ	所沢航空記念公園、ところざわのゆり園、狭山湖 (桜)、狭山丘陵いきものふれあいの里センター	さいたま緑の森博物館、不老川、カタクリ、ヒメザゼンソウ、湿地																																				
	生活の知恵	村山かてうどん、里山民家の岸田んぼ	東京コーラ、東京紅茶、ひがしやまと茶うどん	手打ちうどん、東村山黒焼きそば	シクラメン、多摩だるま	プロベ通り・ファルマン通り・銀座通り、手打ちうどん、焼だんご	三井アウトレットパーク入間、手打ちうどん、彩の森入間公園																																				
歴史・文化	村山大島紬、軽便鉄道跡トンネル群、寺社仏閣、村山温泉「かたくりの湯」、歴史民俗資料館・同分館、デエダラまつり	旧日立航空機 (株) 変電所、市立郷土博物館、旧吉岡家住宅 (仮称 東大和郷土美術館)、うまかんべえ～祭、ひがしやまとスイーツウォーキング	正福寺地藏堂、下宅部遺跡はっけんのもり、久米川古戦場跡、国立ハンセン病資料館、東村山ふるさと歴史館	耕心館、瑞穂町郷土資料館けやき館、圓福寺、阿豆佐味天神社、産業まつり	西武ゆうえんち、メットライフドーム、クロスケの家、西武園花火大会、ところざわまつり、市民フェスティバル、中国割烹旅館「掬水亭」、西武園ゴルフ場	入間市博物館 ALIT、出雲祝神社、入間宮寺協会、円通庵 (西久保観音)、ハタヤの稲荷 (ほったらけの島)、文化創造アトリエ AMIGO!																																					
機会要素	交通関連事項	新宿副都心から約 30km 西側、東京都のほぼ中央北部に位置する。	都心から西方 35km にあり、都心へ 1 時間以内の通勤圏に位置する。多摩モノレール上北台駅、桜街道駅、玉川上水駅、西武拝島線東大和市駅が市内に位置する。	東京都の西北部、都心部から約 30km 圏内に位置し、都心まで鉄道で約 30 分程度の場所である。西武多摩湖線西武遊園地駅、八坂駅、萩山駅、西武新宿線東村山駅、久米川駅、西武園線西武園駅、西武池袋線秋津駅、武蔵野線新秋津駅、西武多摩湖線武蔵大和駅が市内に位置する。	町の南北を国道 16 号が、東西を青梅街道と新青梅街道が走り、交通の要所となっている。JR 八高線箱根ヶ崎駅が町内に位置する。	埼玉県の南端に位置し、東京都に隣接している。西武山口線遊園地西駅、西武狭山線下山口駅、西武池袋線狭山ヶ丘駅、小手指駅、西所沢駅、西武新宿線新所沢駅、航空公園駅、西武池袋線・新宿線所沢駅、西武狭山線西武球場前駅、JR 武蔵野線東所沢駅が市内に位置する。	都心から北西約 40km 圏に位置する。JR 八高線金子駅、西武池袋線元加治駅、仏子駅、武蔵藤沢駅が市内に位置する。																																				
	主な目的地 (地域経済システム RESAS より) ※2017 年、休日、交通手段自動車にて設定 (上位 5 カ所)	1. イオンモールむさし村山 2. 都立野山北・六道山公園 3. 武蔵村山市総合体育館 4. 真如苑グラウンド 5. 村山温泉 かたくりの湯	1. 多摩湖 2. 東大和スケートセンター 3. 東大和市民会館 4. 中国割烹旅館掬水亭 5. 都立東大和南公園	1. 東村山市民スポーツセンター 2. 都立狭山公園正門 3. 都立東村山中央公園 4. 東村山市北山公園 5. ホテルメッツ久米川	1. THEMALL みずほ 16 2. 瑞穂ビューパークスカイホール 3. 六道山公園 4. シクラメンスポーツ公園 5. 瑞穂町郷土資料館けやき館	1. メットライフドーム 2. 西武ゆうえんち 3. 所沢航空記念公園 4. 文化センターミュージズ 5. 西武園ゴルフ場	1. 三井アウトレットパーク入間 2. ジョンソンタウン 3. イオン入間ショッピングセンター 4. 狭山ゴルフ・クラブ 5. ステップゴルフ入間店																																				
	観光協会の有無	無 (観光協会設立にむけ検討中)	無	無	有 (瑞穂町商工会内)	有 (所沢市役所産業経済部商業観光課内)	有 (入間市役所商工観光課内)																																				
	関連計画	・武蔵村山市第四次長期総合計画後期基本計画 (H28~32) ・武蔵村山市まちづくり基本方針 (改定) (H25~35)	・東大和市総合計画 (H14~33) ・東大和市都市マスタープラン (H27~36)	・第 2 次東村山市観光振興プラン ・東村山市みどりの基本計画 2011 (H23~32)	・第 4 次長期総合計画後期基本計画 (H28~H32) ・瑞穂町産業振興ビジョン (H25~32) ・水・緑と観光を繋ぐ回路計画 (H24~H32)	・第 5 次所沢市総合計画後期基本計画 (H27~30) ・所沢しみどりの基本計画 (H27~30)	・第 6 次入間市総合計画・前期基本計画 (H29~33) ・入間市シティセールス戦略プラン																																				

第2章 狭山丘陵の概要

2-1. 狭山丘陵の成り立ち

狭山丘陵は富士山の火山灰の堆積層である関東ローム層に覆われた武蔵野台地の西部に「島」のように浮かぶ丘陵である。武蔵野台地とは、海拔約190mの青梅を扇頂とし、北は入間川、東は荒川、西は多摩川、南は現在の山ノ手につながる東西40km、南北20kmの東にゆるやかに傾斜した台地である。「武蔵野の逃げ水」といわれるように関東ローム層は透水性が高く、水は伏流水となり、台地上に河川は発達せず、わずかに崖線や谷地から湧水となって湧き出す。狭山丘陵では、丘陵から流れ出す中小の河川が入り込んで数多くの小さな谷をつくっている。

狭山丘陵は東西約11キロメートル、南北約4キロメートル、面積は約3,500ヘクタール（35km²、東京ドーム約750個分、メットライフドーム約1,000個分）の広さをもつ丘陵地である。「さやま」の由来は、小さい山が連なるところとみられ、標高の最も高いところで194メートルあり、狭山丘陵を空から見ると、ラグビーボールの形をしたまるで市街地の中にかぶ「緑の島」のように見える。そこには、都心から30km圏内にも関わらず広大な雑木林や谷戸、湿地といった環境が広がって、とても豊かな自然の姿が残されている。



狭山丘陵は青梅から東に向かって扇状にひろがる武蔵野台地（多摩川扇状地）の西部に位置し、地形的にも孤立した島のようにみえる。これは、今から約60万年以前の古多摩川が、長い時間をかけて大地をけずり、中洲（なかす）のように残った部分である。

狭山丘陵全体図



引用：さいたま緑の森博物館ホームページ

2-2. 狭山丘陵・武蔵野台地の地質

狭山丘陵の地質は、大きく3層からなる。最下部で丘陵の土台をなす地層は約150～100万年前の狭山層（上総層群）で、関東平野の大部分がまだ海だった時代に堆積した砂やシルト（砂と粘土の中間）などからなる。この狭山層を不整合で覆って、約70～60万年前の芋窪層が堆積した。芋窪層は、古多摩川の扇状地性の砂礫層で、この時代、狭山丘陵は隣り合う加治丘陵と一続きの広大な扇状地面だった。その後、芋窪層を覆って、古八ヶ岳や古箱根などの火山活動による多摩ローム層が堆積した（多摩面の形成）。関東山地から流れ出した多摩川は東に向かって多摩面を削りながら乱流し、約13万年前以降から青梅付近を頂点とする新たな扇状地（これが武蔵野台地となる）を形成した。狭山丘陵は古多摩川が島状に削り残した多摩面の残片である。

13万年前頃には地球全体が温暖化し、氷河が溶けて海面が上昇した。この海進期に礫層が堆積してできた平坦面（下末吉面=金子台・所沢台）上に、13万～8万年前頃に下末吉ローム層が堆積した。

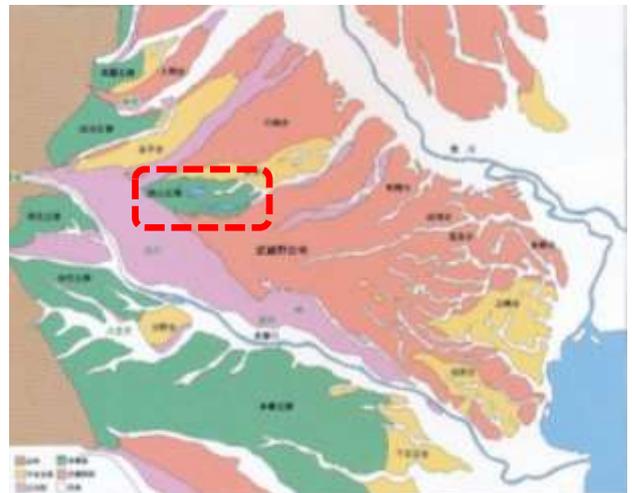
8万～4万年前頃には、海水面は上下しながらも次第に下がり、下末吉ローム面を古多摩川河川が浸食して一段低いところにまた平坦面をつくった（武蔵野面の形成）。また、富士山の火山活動によって武蔵野ローム層が堆積した。立川断層の影響により狭山丘陵が隆起して多摩川の主流は丘陵の南側へ向かうようになり、現在の流路に近づいていった。この時期、狭山丘陵は台地から完全に孤立し、柳瀬川などの小川もその原形を作り始めた。

約2万年前に最終氷期の寒冷化のピークがあった。海面が約100m低下し、東京湾は完全に干上がり、多摩川は下末吉面や武蔵野面を削り取って、現在より急勾配で流れた（立川面の形成）。この時に浸食された崖が、国分寺崖線や金子台南縁段丘崖となっている。多摩川の主流は狭山丘陵の南側に向かい、狭山丘陵の北側への流路は現在の不老川が流れる流路が最後まで残った。また、富士山の噴火による立川ローム層が堆積した（立川面の形成）。この頃、既に日本人の祖先が関東地方にも住みついていた。

1万年前頃、氷期は終わり温暖期に入る。5千～6千年前頃に海水面は現在より3～4メートル上昇した当時縄文時代であったころから、この海進を縄文海進と呼んでいる。その後、気候は寒冷化し、海水面も下がって現在の海岸線となった。最終氷期が終わった頃、以降形成された地層を沖積層、地形を沖積低地、または沖積平野という。

関東ローム層は古富士や古箱根などの活動によって堆積した火山灰層で、色から赤土とも呼ばれている。武蔵野台地では、先に見たように堆積した時期によって古い方から多摩ローム層・下末吉ローム層・武蔵野ローム層・立川ローム層に区分されている。堆積したローム層を古多摩川が削り、また別のローム層が上から堆積することで高さの違う段丘面が形作られた。この段丘面はローム層の名に対応して多摩面・下末吉面・武蔵野面・立川面と呼ばれ、多摩面は丘陵に、下末吉面から立川面までは武蔵野台地に該当する。

段丘面と段丘面の間は崖（段丘崖）であり、湧き水がしばしば見られた。狭山丘陵で複雑に発達した大小の谷は、このような湧水点からの水流によってつくられたもので、狭山丘陵の遺跡は丘陵の谷あいや川の周辺など水利のよい場所に立地することが多い。



引用：『ところざわ歴史物語』

2-3. 狭山丘陵周辺の歴史

狭山丘陵にいつから人が居住し始めたのか。狭山丘陵からは約1万年前の先土器時代（旧石器時代）の遺跡（複数）にはじまり、現代に至るまで狭山丘陵とその周辺では途切れることなく人々の営みがつながってきた。現代の狭山丘陵の姿は、この地に住んできた人々の1万年にわたる歴史の積み重ねによってつくられたものである。

1) 先史

狭山丘陵の歴史は古くは先土器時代（旧石器時代）にさかのぼる。今でもたくさんの遺跡が狭山丘陵及びその周辺で発掘されており、1万年以上前にも人々がこの場所を生活の場としていた事が確認されている。丘陵の動物や豊かな植物に支えられた狩猟採集生活の縄文時代の遺跡は、草創期から晩期まで各時期の遺跡が多数存在している。稲作を含め農業が始まる弥生時代や古墳時代の遺跡数は多くはないが、谷戸に田が開かれ、集落が営まれた。

2) 古代・中世

所沢市、東村山市で東山道武蔵路が発掘調査で確認されている。また、瑞穂町阿豆佐味天神社や入間市の出雲祝神社が延喜式神名帳に記載されている。一方、武蔵野台地の中央には未だ武蔵野の原野が広がっていた。

この原野を舞台に次の時代をつくったのが武蔵七党といわれる武蔵武士団である。狭山丘陵周辺には武蔵七党の一つである村山党が勢力をはった。村山党は、平姓の一族で、平安時代に平頼任が狭山丘陵に居館を構え、地名の「村山」を名字とする。その孫の代となって、一族は大井、宮寺、金子、山口と狭山丘陵の周辺や武蔵野台地一帯に分散し、それぞれの地名を名字とした。さいたま緑の森博物館にほど近い入間市宮寺の西勝院に、宮寺氏（家祖：宮寺家平）の館跡がある。また、西武鉄道狭山線下山口駅近くに、山口氏（家祖：山口家継）の居城となっていた山口城跡も存在している。

また、武蔵野台地には鎌倉街道がつくられ、狭山丘陵周辺を含め武蔵野の原野は戦の舞台になった。武士たちによって建てられた大量の板碑（緑泥片岩の石板でつくる卒塔婆）が今日まで伝えられ、幾つかの寺院には今も残されている。

3) 近世

狭山湖北岸には、室町時代の山口高忠によって築城された根古屋城跡も存在している。狭山湖周辺は東京都水道局管理の公有地となっており、水資源の保護地域として高いフェンスに囲まれているため、昭和58（1983）年以降一般人の立ち入りは禁止されている。そのため根古屋城遺構は本格的な調査が行われておらず、かつ山城であるため、狭山湖を作る際に水の中に沈んだ部分もあると考えられている。

江戸時代になると武蔵野台地の風景は大きく変わる。原野が畑地に変わった。それまでの農業は丘陵の小さな谷戸の田と畑作と、武蔵野台地を肥料や牛馬の餌あるいは飼料の供給地として利用していた。新田開発は、これら入会となっていた山林や採草地の開拓を意味し、時に論争を起しながらかつ拡大し、玉川上水（狭山丘陵付近では分水の野火止用水）の開削と幕府による武蔵野新田の開拓奨励によって加速化した。有力な農民は村外の台地にも開発の手を伸ばした。農地が急速に拡大し新田村が生まれた。

これらの新田は畑地である。武蔵野台地には原野に代わり広大な畑作新田地帯が出現した。従来の畑地も地味がよくなかったが、新田はさらに地味が悪かった。これを克服する作物として地域の人々が取り組んだのが大麦、小麦、ソバ、アワ、ヒエなどの雑穀類や、ダイコン、イモ、ゴマ、また享保年間以降はサツマイモの栽培などがあり今日に引き継がれている。特に武蔵野うどんは畑作農業の生んだ代表的な特産品であるといえる。

江戸期には武蔵野台地に街道が走り、箱根ヶ崎や所沢に市がたち、農業地帯にも江戸との商品経済が浸透していく。農閑期の仕事として狭山茶の栽培、養蚕・製糸、木綿の紺緋である村山緋のもととなる機織りが行われる。狭山丘陵を背景に、この時期の代表的な産物として狭山茶があり、中世の文献に、「河越茶」「慈光茶」などの記述があり、狭山茶のルーツと考えられている。一時期衰退した茶づくりであったが、二本木村西久保（現・入間市宮寺）の吉川温恭（よしかわよしづみ）は、坊村（現・瑞穂町）の村野盛政（むらのもりまさ）とともに「蒸し製煎茶」の技術を開東に初めて導入して茶づくりを復興させ、今日につながる狭山茶の歴史を切り開いた。入間市宮寺の出雲祝神社にある重闘茶場碑（かさねてひらくちゃじょうのひ）は、一度は途絶えた茶づくりが再び始まったことを記念し、天保3（1832）年に建てられた石碑である。

江戸時代後期、狭山茶の販路は江戸の山本嘉兵衛（やまもとかへえ、山本山）と取り引きが行われ、宇治の高級煎茶にも劣らない品質と評価され、本格的な茶産地としての地歩を固めた。

また一方で、箱根ヶ崎の新ソバは「箱根ソバ」として江戸で売り出された。村山緋に代わって大正時代に絹織物の村山大島紬が生産されるようになる。言い換えれば、これらは江戸時代からの産業・文化を象徴する代表的な歴史的な産物といえるのである。

4) 近代

近代に入ると膨張する首都東京の水瓶として、丘陵の谷に村山貯水池（通称：多摩湖、昭和2（1927）年完成）と山口貯水池（通称：狭山湖、昭和9（1934）年完成）が相次いで竣工し、狭山丘陵に湖というもう一つの自然要素が加わり、都市機能の維持としてのインフラの整備と同時に、広大な貯水地は、首都圏の住民に動植物や自然との安らぎと触れ合いを可能とするエリアとして機能していくのである。

また、狭山丘陵周辺は所沢の飛行場の建設、また、戦争の足音が近づく昭和10（1935）年代には飛行場や飛行学校、軍需工場などがつくられ、農村地帯だった狭山丘陵周辺は変わっていく。戦後の高度経済成長は東京の住宅街を近郊へと拡大し、狭山丘陵周辺も東京のベッドタウンとして開発が進み、里山景観は消滅の危機に瀕していた。そうしたなかで狭山丘陵は二つの貯水池の水源涵養林として保全されたことによって「首都圏の緑の島、多様な動植物が生息する生物多様性を維持した自然の宝庫の拠点、自然とのふれあいの空間」として残っており、その重要性が首都圏で高まっているといえる。

以上のように狭山丘陵は、縄文時代以前からのダイナミックな自然遺産としての価値を残し、かつその自然との関わりで育まれてきた現代にいたるまでの自然、歴史、文化遺産を重層的に凝縮して見ることのできる貴重なエリアなのである。

2-4. 狭山丘陵における自然公園

狭山丘陵は、「東京都立狭山自然公園」及び「埼玉県立狭山自然公園」として自然公園に位置付けられており、その中に以下のような公園・緑地がある。



名称	内容・特徴
都立狭山公園	都立狭山自然公園の区域内にあり、武蔵野の里山の風景や自然が残っている。都民の水がめである多摩湖の堰堤の東側に広がり、宅部池や太陽広場等がある。
都立八国山緑地	八国山緑地は、なだらかに広がる狭山丘陵の東端に位置している。園内全体がコナラ、クヌギ等の雑木林となっており、さまざまな野鳥や昆虫が見られる貴重な緑となっている。
都立東大和公園	東京都で最初の丘陵地公園として、昭和54年に開園。狭山丘陵の自然を活かした公園は、起伏に富み、コナラ、アカマツを主体とする雑木林でおおわれている。
都立野山北・六道山公園	首都圏に残された「緑の島」都立狭山自然公園の西端にあり、雑木林と谷戸の組み合わせによって、豊かな自然が残され、都立公園で最大の面積を有している。
都立中藤公園	狭山丘陵の中央南部に位置しており、周辺の都市公園・緑地や多摩湖を含め、狭山丘陵の水と緑のネットワークを形成するうえで重要な役割を担っている。
県立狭山丘陵いきものふれあいの里	狭山丘陵の北東に位置し、テーマをもつ5カ所の観察スポットが点在します。センターエリア園内には中心施設となる「いきものふれあいの里センター」があり、狭山丘陵の自然や生き物を知ることができる。
鳩峯公園	都立八国山緑地の北側に位置し、ドングリの木やアカマツなどの雑木林となっている。また、公園内には埼玉県指定有形文化財である鳩峯八幡神社があり、歴史的にも重要な場所となっている。
さいたま緑の森博物館	狭山丘陵の北西に位置する。当施設は、雑木林や湿地を含む里山の景観そのものを野外展示とし、生き物の保全や魅力発信を目的に体験交流等のイベントを実施している。

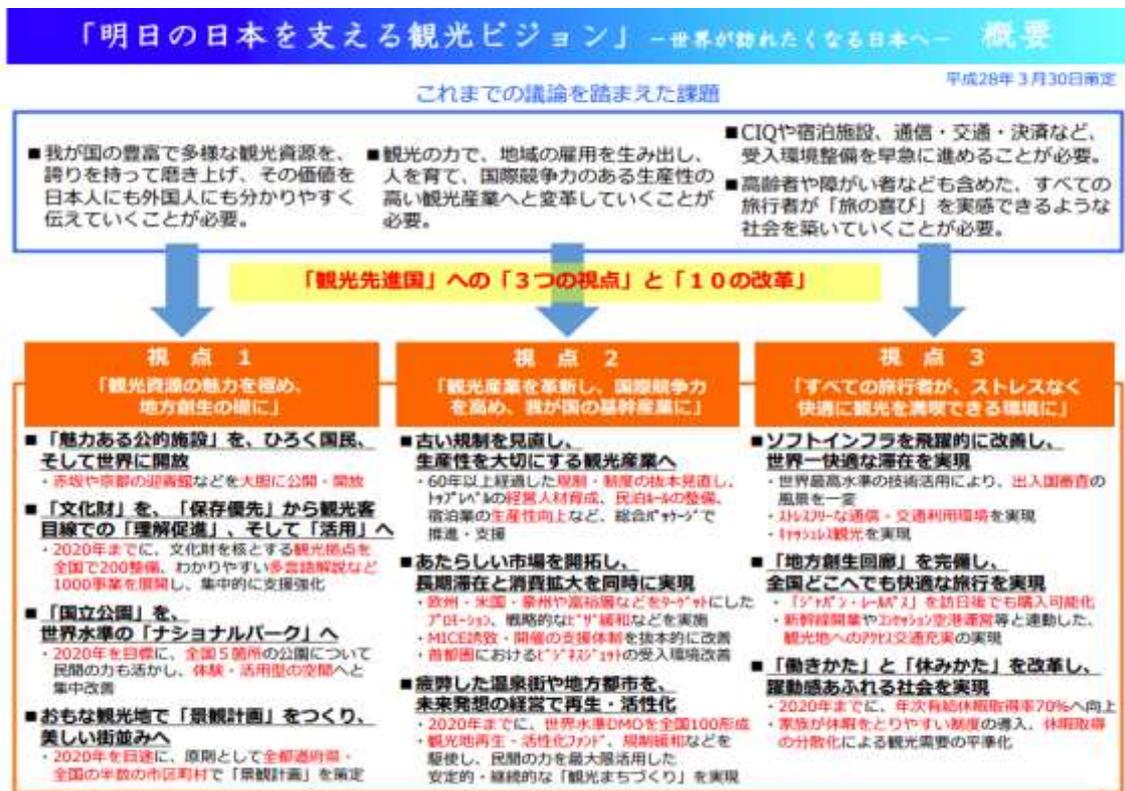
第3章 狭山丘陵エリアの現状と課題

3-1. 国の観光動向

国では、平成 18 年に成立された「観光立国推進基本法」に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成 29 年度には新たに「観光立国推進基本計画」が閣議決定された。

「観光立国推進基本計画」は、「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成 28 年 3 月 30 日 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）を踏まえ、観光は我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識の下、拡大する世界の観光需要を取り込み、世界が訪れたいくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図ることとしている。

【「明日の日本を支える観光ビジョン」-世界が訪れたいくなる日本へ-】



【観光立国推進基本計画】

<p>○観光立国の実現に関する施策についての基本的な方針</p> <p>① 国民経済の発展：観光を我が国の基幹産業へ成長させ、日本経済を牽引するとともに、地域に活力を与える。</p> <p>② 国際相互理解の増進：観光を通じて国際感覚に優れた人材を育み、外国の人々の我が国への理解を深める。</p> <p>③ 国民生活の安定向上：全ての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような環境を整え、観光により明日への活力を生み出す。</p> <p>④ 災害、事故等のリスクへの備え：国内外の旅行者が安全・安心に観光を楽しめる環境をつくり上げる。観光を通じて東北の復興を加速化する。</p>																																	
<p>○観光立国の実現に関する目標</p> <table border="1"> <tr> <td>国内観光の拡大・充実</td> <td>① 国内旅行消費額</td> <td>21兆円</td> <td>国際観光の拡大・充実</td> <td>⑥ アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合</td> <td>3割以上</td> </tr> <tr> <td>国際観光の拡大・充実</td> <td>② 訪日外国人旅行者数</td> <td>4,000万人</td> <td>国際相互交流の推進</td> <td>⑦ 日本人の海外旅行者数</td> <td>2,000万人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 訪日外国人旅行消費額</td> <td>8兆円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ 訪日外国人リピーター数</td> <td>2,400万人</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤ 訪日外国人旅行者の地方部における基へ宿泊者数</td> <td>7,000万人泊</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>インバウンド消費を更に拡大し、その効果を全国津々浦々に届けるため、③～⑤を新たに基本的な目標として設定。</p>				国内観光の拡大・充実	① 国内旅行消費額	21兆円	国際観光の拡大・充実	⑥ アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合	3割以上	国際観光の拡大・充実	② 訪日外国人旅行者数	4,000万人	国際相互交流の推進	⑦ 日本人の海外旅行者数	2,000万人		③ 訪日外国人旅行消費額	8兆円					④ 訪日外国人リピーター数	2,400万人					⑤ 訪日外国人旅行者の地方部における基へ宿泊者数	7,000万人泊			
国内観光の拡大・充実	① 国内旅行消費額	21兆円	国際観光の拡大・充実	⑥ アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合	3割以上																												
国際観光の拡大・充実	② 訪日外国人旅行者数	4,000万人	国際相互交流の推進	⑦ 日本人の海外旅行者数	2,000万人																												
	③ 訪日外国人旅行消費額	8兆円																															
	④ 訪日外国人リピーター数	2,400万人																															
	⑤ 訪日外国人旅行者の地方部における基へ宿泊者数	7,000万人泊																															
<p>○観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策</p> <table border="1"> <tr> <td>① 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成 (世界水準の観光地の形成、東北の観光復興、文化財・歴史的資源・自然等の観光資源としての活用、景観の保全、国際拠点空港の整備、クルーズ船の受入拡充、地方創生回廊の整備等)</td> <td>③ 国際観光の振興 (オールジャパンによる訪日プロモーションの実施、ビザの戦略的緩和、最先端技術を活用した出入国審査、通訳ガイドの充実、ランドオペレーター登録制度の導入、通信環境整備等)</td> </tr> <tr> <td>② 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成 (旅行業法の改正を通じた地域独自の旅行商品の創出、長泊サービスへの対応、観光地再生・活性化ファンドの組織的な展開、観光経営人材の育成、宿泊業の生産性向上等)</td> <td>④ 観光旅行の促進のための環境の整備 (外国人観光旅行等の災害被害軽減等)</td> </tr> </table>				① 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成 (世界水準の観光地の形成、東北の観光復興、文化財・歴史的資源・自然等の観光資源としての活用、景観の保全、国際拠点空港の整備、クルーズ船の受入拡充、地方創生回廊の整備等)	③ 国際観光の振興 (オールジャパンによる訪日プロモーションの実施、ビザの戦略的緩和、最先端技術を活用した出入国審査、通訳ガイドの充実、ランドオペレーター登録制度の導入、通信環境整備等)	② 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成 (旅行業法の改正を通じた地域独自の旅行商品の創出、長泊サービスへの対応、観光地再生・活性化ファンドの組織的な展開、観光経営人材の育成、宿泊業の生産性向上等)	④ 観光旅行の促進のための環境の整備 (外国人観光旅行等の災害被害軽減等)																										
① 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成 (世界水準の観光地の形成、東北の観光復興、文化財・歴史的資源・自然等の観光資源としての活用、景観の保全、国際拠点空港の整備、クルーズ船の受入拡充、地方創生回廊の整備等)	③ 国際観光の振興 (オールジャパンによる訪日プロモーションの実施、ビザの戦略的緩和、最先端技術を活用した出入国審査、通訳ガイドの充実、ランドオペレーター登録制度の導入、通信環境整備等)																																
② 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成 (旅行業法の改正を通じた地域独自の旅行商品の創出、長泊サービスへの対応、観光地再生・活性化ファンドの組織的な展開、観光経営人材の育成、宿泊業の生産性向上等)	④ 観光旅行の促進のための環境の整備 (外国人観光旅行等の災害被害軽減等)																																

3-2. 東京都・埼玉県の観光動向

1) 東京都の観光動向

東京都では、観光産業を「多くの産業に経済波及効果をもたらし、飛躍的な成長が見込まれる産業」として位置づけ、本格的な観光振興に取り組んでいる。

平成30年2月には戦略性をもった総合的な観光産業振興の展開を目的とした「PRIME 観光都市・東京 ～東京都観光産業振興実行プラン 2018～」を策定している。同プランでは、東京が旅行者にとって世界最高の観光都市となることを目指して、「消費拡大に向けた観光経営」、「集客力が高く良質な観光資源の開発」、「観光プロモーションの新たな展開」、「MICE 誘致の新たな展開」、「外国人旅行者の受入環境の向上」、「日本各地と連携した観光振興」の6つの戦略に基づく施策を位置づけている。

【PRIME 観光都市・東京 ～東京都観光産業振興実行プラン 2018～】

■本プランにおける数値目標

- ・訪都外国人旅行者数 2020年：2,500万人、2024年：3,000万人
訪都外国人旅行者数の市場別目標（2020年）
欧米豪：500万人、東アジア：1,550万人、東南アジア+インド：370万人
- ・外国人リピーター数 2020年：1,500万人、2024年：1,800万人
- ・訪都外国人消費額 2020年：2兆7,000億円
- ・訪都国内旅行者数 2020年：6億人
- ・訪都国内旅行者消費額 2020年：6兆円

■観光産業振興に向けた今後の施策展開

- 1 消費拡大に向けた観光経営
 - ・インバウンド消費を安定的に継続して取り込むため、外国人材活用に向けた支援を実施
 - ・外国人旅行者に向けた、芸能や文化等に関する情報の一元的な発信を検討
- 2 集客力が高く良質な観光資源の開発
 - ・ライトアップやプロジェクションマッピング等による演出を活用する取組を支援
 - ・ナイトライフ観光の充実に向け、外国人旅行者のニーズや海外の取組事例などを調査
 - ・（東京島しょ地域）各島の観光資源を「宝物」としてブランディングする取組を支援
- 3 観光プロモーションの新たな展開
 - ・アイコンを活用して東京の魅力をPRし、民間と連携して旅行者受入機運を醸成
 - ・訪都外国人旅行者数の増加が期待できる新たな国・地域での旅行者誘致の取組を開始
 - ・欧米地域の富裕な旅行者層に対する戦略的プロモーション活動を実施
- 4 MICE 誘致の新たな展開
 - ・ユニークベニュー利用に関しワンストップで総合的な支援を行う窓口を設置
 - ・ユニークベニューの受入環境の充実、ウェブサイト開設などによる魅力発信の強化
- 5 外国人旅行者の受入環境の向上
 - ・観光ボランティアの活動エリア（新宿・上野・浅草・銀座）の拡大
 - ・外国人旅行者の目線を踏まえた「GO TOKYO」のコンテンツの充実
 - ・外国人、障害者等あらゆる人が快適な旅行を楽しめる環境の整備
- 6 日本各地と連携した観光振興
 - ・ラグビーワールドカップ 2019TM を契機とし、国内開催都市と連携したプロモーション活動などを実施

また、訪日外国人旅行者の増加に伴い、東京都を訪れる外国人旅行者数も増加し続けている。そこで、東京都が平成 26 年 12 月に策定した外国人旅行者の受入環境整備方針では、東京オリンピック・パラリンピック 2020 大会までに「世界一のおもてなし都市・東京の実現」を目指して、「多言語対応の改善・強化」や「情報通信技術の活用」などの 5 つの視点に基づき、都内全域で、「多言語による案内サインの充実や通訳アプリの活用」や「無料 Wi-Fi やデジタルサイネージの整備の推進、緊急時・災害時での活用」などの外国人旅行者の受入環境整備に取り組んでいる。

2) 埼玉県観光動向

埼玉県では、県、市町村、観光事業者、観光関係団体及び埼玉県民が一体となって観光づくりを進めるため、平成 24 年 3 月に「埼玉県観光づくり推進条例」を策定した。条例では、第 16 条において、知事は観光づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、観光づくりに関する基本的な計画を定めることとしている。埼玉県では、第 2 期埼玉県観光づくり基本計画を策定し、市町村、観光事業者、観光関係団体及び県民と連携して国内外からの観光客誘致を推進している。

【第 2 期埼玉県観光づくり基本計画】

■基本理念

知ってもらって、来てもらって、楽しんでもらえる観光立県 埼玉

■基本方針・主要施策

- (1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック等を契機とした外国人観光客 100 万人の誘致
 - 外国人観光客 100 万人の誘致
 - ・ターゲットを的確に捉えた誘致活動の推進
 - ・外国人観光客にとって快適な受入体制の整備
 - ・広域連携による外国人観光客誘致の促進
- (2) 多彩な観光資源による個性豊かな観光地の形成促進
 - 既存資源の徹底活用と観光基盤の整備
 - ・多様な観光資源の発掘・磨き上げ
 - ・観光客にとって安心・安全な観光基盤の整備
 - ・観光人材の育成とおもてなし力の向上
 - アニメの聖地化推進
 - ・国内外での「アニメの聖地＝埼玉県」の確立
 - ・海外のアニメファン向けプロモーションの推進
 - ・アニメファンに喜ばれるおもてなし力の醸成
- (3) SAITAMA ブランドの確立による地域経済の活性化
 - SAITAMA ブランドプロモーションの推進
 - ・県産品の販売拡大・ブランド化の推進
 - ・国内外でのプロモーションの積極的な展開
 - ・民間事業者・自治体等との連携の促進

3-1. 狭山丘陵エリアの観光の実態

1) 来訪状況（来訪数等）

狭山丘陵周辺における施設・公園等の利用概況を整理する。

名称	年間総数 (H25 年度推計値)	利用概況
都立狭山公園	495,138 人	近隣の利用は、平日は散歩や犬の散歩等がほとんどで、休日は親子の利用が多くみられる。西武多摩湖線の西武遊園地駅や武蔵大和駅に近接しているため、電車を利用したハイキング等の利用もある。また、多摩湖一周のサイクリングや、ツーリングの休憩などでの立ち寄りにも利用されている。
都立八国山緑地	281,673 人	尾根道のウォーキングが主な利用である。ころころ広場は休息での利用が多い。ほっこり広場やおおぞら広場は、近隣住民の犬の散歩などが多い。
都立東大和公園	39,544 人	広い雑木林で覆われている園内を散策したり、ハイキングや自然観察を目的とした利用が多い。
都立野山北・六道山公園	214,198 人	公園の立地から、交通手段として車で来園する利用者の割合が多い。自然観察や里山体験といったイベントへの参加や、四季折々の移り変わりを楽しむハイキング、学校行事の遠足や校外学習などの利用が多い。あそびの森や冒険の森は人気が高い。
荒幡富士市民の森	—	広さは 46630 m ² ほどで、園内には中心施設となるいきものふれあいの里センターがあり、狭山丘陵の自然や生き物を知ることができる。休みの日になると、親子、カップル、夫婦などで賑わっており、航空祭などがある日は、荒幡富士頂上に沢山の人が集まる。
鳩峯公園	—	公園内には新田義貞が鎌倉攻めの際に先勝祈願を行った埼玉県指定有形文化財の鳩峯八幡神社があり、歴史散策としても利用されている。
さいたま緑の森博物館	—	狭山丘陵の雑木林や湿地など自然そのものを野外展示物とした野外博物館（フィールドミュージアム）であり、自然散策路を散歩や観察、自然体験を目的として利用されている。

※年間総数：「公園別マネジメントプラン」東京都建設局

2) 地域資源等のリストアップ

観光目的地としての資源の状況を明らかにし、潜在資源の発掘にもつなげるべく、自然との関わりを通じて、人々が今日までに築いてきた重層的な自然と歴史の遺産をリストアップした。既存の文献資料に基づき、6市町についての主な地域資源として地域資源（自然）の宝、歴史文化の宝、生活の宝、産業の宝4分野に分けて作成した。

地域資源の分類について

分類	該当する資源
地域資源（自然）の宝	公園、コース、生き物、植物など
歴史文化の宝	遺跡、文化財、神社、伝統工芸、街道、名所など
生活の宝	施設、飲食店、商店街、風景、名産、用水路など
産業の宝	お茶、花卉、果樹園、工場、直売所、農園、特産品など

①地域資源（自然）の宝

	地域資源（自然）の宝	
東村山市	<ul style="list-style-type: none"> 都立八国山緑地 北山公園菖蒲苑 淵の森緑地 	<ul style="list-style-type: none"> 都立狭山公園 廻田緑道
東大和市	<ul style="list-style-type: none"> 多摩湖（村山下貯水池） 東大和公園 狭山緑地 東大和南公園 上仲原公園 	<ul style="list-style-type: none"> 下立野林間こども広場 多摩川上水 野火止用水 多摩湖自転車歩行者道 東大和市ファーマーズセンター
武蔵村山市	<ul style="list-style-type: none"> 残堀川・空堀川 都立野山北公園 あそびの森・冒険の森 大南公園 	<ul style="list-style-type: none"> ひまわりガーデン武蔵村山 カタクリ群生地（市立野山北公園） 野山北公園自転車道の桜並木 湖南衛生組合の菖蒲園
瑞穂町	<ul style="list-style-type: none"> 六道山公園 狭山池公園 みずほエコパーク 瑞穂ビューパーク 	<ul style="list-style-type: none"> 残堀川 桜沢 さやま花多来里（かたくり）の郷 松原中央公園
入間市	<ul style="list-style-type: none"> 不老川 不老川堤と曼珠沙華 西久保観世音のカヤ ヒメザゼンソウの群生地 	<ul style="list-style-type: none"> さいたま緑の森博物館 西久保湿地 カタクリ群生地
所沢市	<ul style="list-style-type: none"> 狭山湖 菩提樹池 比良の丘 所沢航空記念公園 金仙寺のしだれ桜 ところざわのゆり園 多門院のボタン 	<ul style="list-style-type: none"> 三ヶ島のひまわり畑 狭山湖の桜 所沢航空記念公園の桜 荒幡富士 狭山丘陵いきものふれあいの里センター 東川の桜並木 日本一長いけやき並木

②歴史文化の宝

	歴史文化の宝	
東村山市	<ul style="list-style-type: none"> 久米川古戦場 正福寺地蔵堂 	<ul style="list-style-type: none"> 国立ハンセン病資料館
東大和市	<ul style="list-style-type: none"> 旧日立航空機（株）変電所 豊鹿島神社 慶性門 蔵敷高札場 	<ul style="list-style-type: none"> 市立郷土博物館 鹿島台遺跡 高木神社 狭山神社

歴史文化の宝	
	<ul style="list-style-type: none"> 青梅橋跡 旧吉岡家住宅(仮称東大和郷土美術園)
武蔵村山市	<ul style="list-style-type: none"> 村山大島紬 村山織物協同組合事務所 軽便鉄道跡のトンネル群 長圓寺 禅昌寺 真福寺
瑞穂町	<ul style="list-style-type: none"> 多摩だるま 耕心館
入間市	<ul style="list-style-type: none"> 博物館 [アリット] 出雲祝神社 西久保観世音(にしくぼかんぜおん)の鉦(かね)はり 重関茶場碑(かさねてひらくちゃじょうのひ)及び茶場後碑() 出雲祝神社文書 ハタヤの稲荷
所沢市	<ul style="list-style-type: none"> 将軍塚 黄林閣 狭山不動尊 三富開拓地地割

③生活の宝

生活の宝	
東村山市	<ul style="list-style-type: none"> 豊島屋酒造株式会社 株式会社ポールスタア 里に八国グルメ
東大和市	<ul style="list-style-type: none"> 貯水池 鳥山 榎本豆腐店 BIGBOX 東大和 ひがしやま茶うどん
武蔵村山市	<ul style="list-style-type: none"> 村山温泉「かたくりの湯」 満月うどん 青柳 一休 手作り郷土料理の店 翔 本格手打ちうどん笑乃讃
瑞穂町	<ul style="list-style-type: none"> 瑞穂クッキー 瑞穂七色唐辛子 伊勢屋 菓子処 荻野屋 創作郷土菓子 榎本屋
入間市	<ul style="list-style-type: none"> 三井アウトレットパーク入間 ミュージアムショップ宇茶戯 フジパン 山田うどん
所沢市	<ul style="list-style-type: none"> プロペ通り・ファルマン通り・銀座通り 西武園ゆうえんち メットライフドーム 狭山スキー場 クロスケの家 手打ちうどん 焼だんご 涼太郎 喜多一

④産業の宝

	産業の宝	
東村山市	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩湖梨 ・多摩湖ぶどう ・赤キウイ 	
東大和市	<ul style="list-style-type: none"> ・東京狭山茶 ・森永乳業（株）東京多摩工場 ・やすじいの農園 	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩湖梨 ・東京紅茶 ・東京コーラ
武蔵村山市	<ul style="list-style-type: none"> ・東京狭山茶 ・みかん狩り農園 	
瑞穂町	<ul style="list-style-type: none"> ・東京狭山茶 ・東京みずほトマト ・みずほ育ちのシクラメン 	
入間市	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山茶 ・チーム入間（マイクロテクノロジー） ・狭山台工業団地連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・入間市茶業協会 ・武蔵工業団地連絡会
所沢市	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山茶 ・三ヶ島狭山湖ぶどう組合 ・三ヶ島ぶどう組合 ・北野みかん園 	<ul style="list-style-type: none"> ・栗原しいたけ園 ・石井園 ・真々根園 ・苺のマルシェ ・はっぴーいちご園

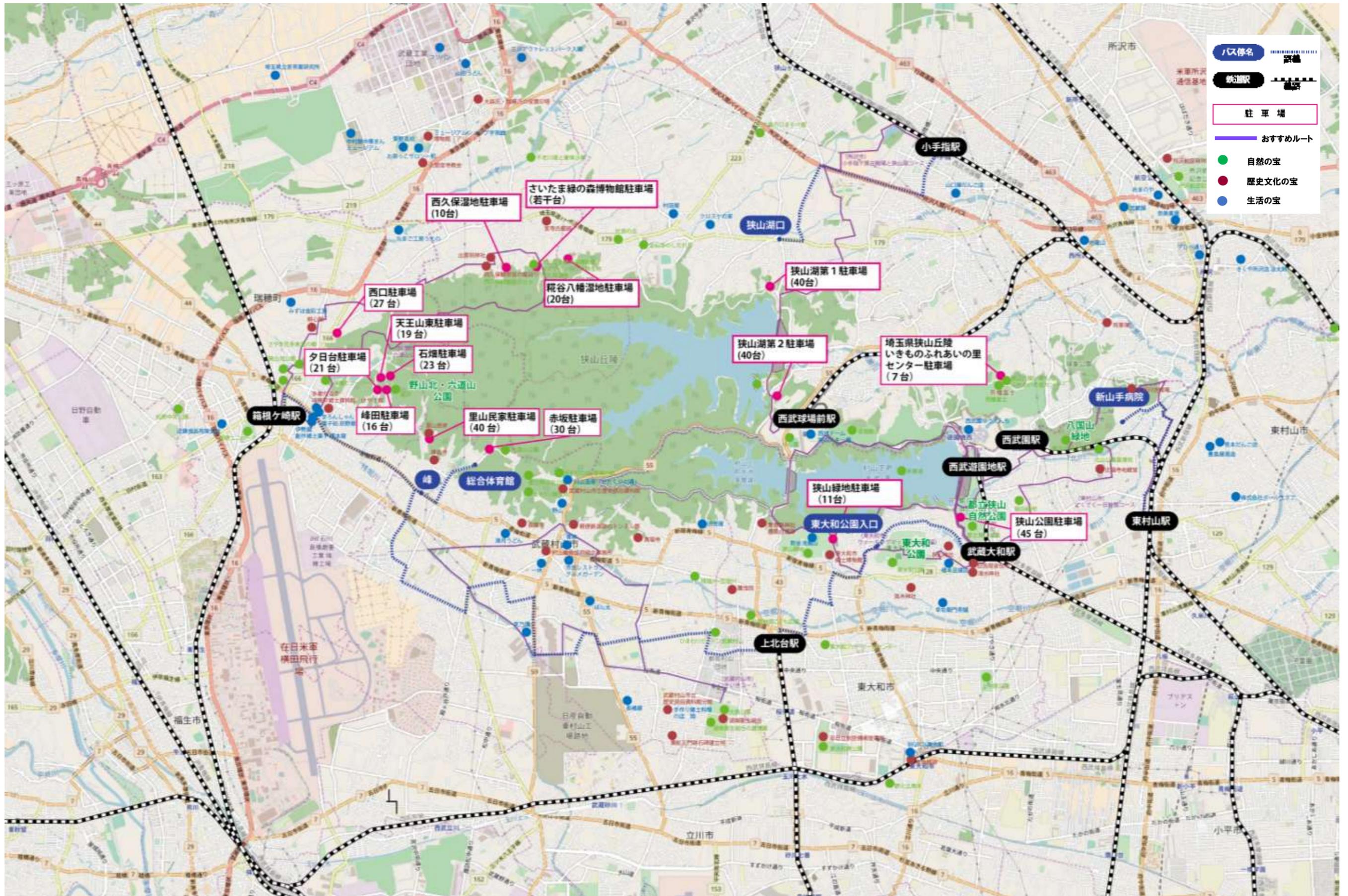
⑤ 既存イベント

6市町で開催されている各種イベントをテーマごとに整理する。

	食	ウォーキング	自然	その他
東村山市	<ul style="list-style-type: none"> ・東村山ご当地グルメイベント「さと八だヨ！全員集合！！」 ・東村山市民産業まつり ・どんこい祭(東村山) ・マルシェ久米川 ・黒焼きそば食べ歩きキャンペーン ・豊島屋フェスタ ・いちよう祭り ・のみむら 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワースポット巡り ・JR駅からハイキング ・市内観光ミニツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ・東村山春の緑の祭典 ・空堀川・川まつり ・北山わんぱく夏まつり ・東村山菖蒲まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生園納涼祭 ・東村山市消防団出初式 ・久米川阿波踊り大会
東大和市	<ul style="list-style-type: none"> ・うまかんべえ〜祭 ・ひがしやまとスイーツウォーキング ・産業まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひがしやまとスイーツウォーキング ・うまかんべえウォーキング ・市内まち歩きツアー ・歩こう会 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会（年間12回程度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・おどりフェスティバル ・商店街七夕まつり ・自治会盆踊り ・宝商店会まつり ・光商店会夜祭り ・平和市民のつどい ・まちフォトコンテスト
武蔵村山市	<ul style="list-style-type: none"> ・農業まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜まつりぶら〜りウォーキング in 武蔵村山 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりガーデン武蔵村山 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光納涼花火大会 ・横中馬獅子舞例大祭（長円寺他） ・村山デエダラまつり
瑞穂町	<ul style="list-style-type: none"> ・産業まつり ・みずほマルシェ 	<ul style="list-style-type: none"> ・残堀川ふれあいイベント&ふれあいウォーキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・さやまの花多来里の郷 ・さくらまつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・みずほ雛の春祭り ・円福寺のだるま市

	食	ウォーキング	自然	その他
				・サマーフェスティバル
入間市	<ul style="list-style-type: none"> ・入間茶祭り ・八十八夜新茶まつり ・農業まつり ・入間万燈まつり ・観光協会ウォーキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・古き良きいるまを歩く ・大森池まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・大森の池まつり ・入間川魚釣り大会 ・初日の出の集い ・自然かんさつ会(年間10回程度) ・灯籠ながし ・おとうろうまつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・おとうろうまつり ・八十八夜新茶まつり ・入間万燈まつり
所沢市	<ul style="list-style-type: none"> ・農業祭 ・ソラバル 	<ul style="list-style-type: none"> ・トロッコトンネルと多摩湖畔を歩く ・ところん健康マイレージ ・クアオルト健康ウォーキング ・みどりのふれあいウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ところざわのゆり園 ・多門院 寅まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・西武園花火大会 ・久米水天宮のだるま市 ・瑞岩寺の「岩崎籠獅子舞」 ・ところざわまつり ・市民フェスティバル ・北秋津の天王様 ・重松流祭りばやし ・有楽町の天王様 ・市民文化フェア
西武・狭山丘陵パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・手もみ茶作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドウォーク ・ノルディックウォーキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会 ・薪割り体験 ・バードウォッチング ・田んぼコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・sayama hills day ・さとやまシアター ・写真展 ・さやまつりーカフェ ・里山デイキャンプ ・フォトロゲイニング

⑥ 地域資源および駐車場等の状況



3) アンケート調査（平成 29 年度実施）

①WEB アンケート調査

本調査は、平成 29（2017）年度の「狭山丘陵観光連携事業」の基礎調査の一環として、狭山丘陵の来訪者、及びメインターゲットと想定されるエリアの居住者を対象に、狭山丘陵来訪の現状把握、そして自然観光や狭山丘陵に対する意識を定量的に把握することを目的とする。調査分析データにより事業推進に向けた具体的かつ効果的な観光事業連携モデル策定の基礎資料とする。

【調査内容】

- ・「狭山丘陵エリア」に観光目的で訪問経験のある方、ない方をそれぞれ半数ずつスクリーニング。
- ・調査機関のアンケートモニターを対象としたWEB 調査。
- ・回収サンプル数 合計 525 件

エリア	モニタ数	割合
多摩地域	259	49.3%
区民	155	29.5%
埼玉（南部）	54	10.3%
神奈川（北西部）	57	10.9%
合計	525	100%

【調査結果分析（抜粋）】

◆「丘陵」「自然公園」に来訪する際、最も重視する点

「自然」という要素で人を呼ぶ「フック要素」に、どの部分でお金を落とす「チャージ要素」を加味していくかが、持続的な事業展開を考えた時に必要な要素となる。

「丘陵」「自然公園」に来訪する際、最も重視する点としては、全体で「自然散策」が7割と最も高くなっている。性別、年齢別でみると、女性の若年層は、「大人が楽しめる体験（学習）素材」、「子供（同行者等）が楽しめる体験（学習）素材」、「食事」を最も重視する割合が目立っている。

2番目に重視する点については、「食事」、「見学箇所」、「大人が楽しめる体験（学習）素材」等に分散している。

◆「丘陵」「自然公園」に期待する効果や変化等

首都圏域の消費者に感度の高いテーマを今後設定していく上で、「自然観光」に期待する効果として、「リフレッシュ」が挙げられることから、この要素を考慮する必要がある。

全体では「リフレッシュ」が22.2%と最も高く、次いで「自然に触れあう、満喫する」が16.6%、「癒し」が14.2%となっている。「狭山丘陵エリア」訪問経験者は、「自然に触れあう、満喫する」の割合が特に高くなっている。性別、年齢別でみると、男性の若年層は「癒し」、「リラックス」を期待する割合が高くなっている。

◆「狭山丘陵エリア」への観光訪問の有無及び認知状況

男女との若年層においての認知度が低く、年齢が高くなるにつれ、認知度が高く、かつ訪問経験率も高い傾向になっていることから、今後は若年層への浸透が必要となる。

狭山丘陵エリア訪問経験率は22.4%と約2割となっており、「ない」の割合が約7割を占めている。エリア別でみると、他に比べ、「埼玉県（南部）」の訪問経験率が高くなっている。性別でみると、女性より男性の訪問経験率が高くなっている。

また、狭山丘陵に行ったことがない方を対象とした認知度をみると「聞いたことがなかった」が41.2%と最も多い。場所まで知っていた人は15.3%、名前だけ聞いたことがある人が28.6%、メットライフドーム、西武園ゆうえんちへの来訪経験がある人が14.9%はという分布となっている。

◆「狭山丘陵」に行く場合の同行者、または同行希望者

「家族（ファミリー）」層をターゲットとメインとしながらも、性別や年齢に応じたターゲット設定が求められる。

全体では、「家族（ファミリー）」が36.2%と最も高く、次いで「夫婦」が21.9%、「1人」が17.7%となっている。この分布は、来訪経験者と未経験者で大きな傾向の差異はみられない。性別、年齢別で見ると、男性の若年層は「一人」や「恋人」、ミドル層は「家族」、シニア層は「夫婦」の割合が高くなっている。女性はすべての年代を通じて「友達」の割合が高く、特に若年層とシニア層でその割合が高くなっている。

◆交通手段別の入口と出口の傾向

入口と出口となる市町が同じ人が多い傾向にはあるが、「西武線」の利用者の約3割が異なるルートである。異なる出入口となる市町の方は、「入口：東村山市→出口：所沢市」が半数以上、「入口：所沢市→出口：東村山市」が6割になっていることから、これらの傾向を踏まえたコンテンツ等の展開が求められる。

入口の市町を交通手段別にみると、「自家用車」は、「東村山市」が35.0%と最も高く、次いで「東大和市」が22.0%、「所沢市」が18.7%となっている。「西武線」は、「東村山市」が41.7%、「所沢市」が44.4%となっている。

出口の市町を交通手段別にみると、「自家用車」では、「東村山市」が35.0%と最も高く、次いで「東大和市」が22.0%、「所沢市」が18.7%となっている。

「西武線」では、「東村山市」が34.3%、「所沢市」が50.0%となっており、「入口」と比較すると、「東村山市」の割合が減少している。

◆「狭山丘陵」への再訪意向

再来訪したい理由として、「リフレッシュ」、「自然に触れあう、満喫する」、「癒し」等のキーワードが多いことから、これらの要素を踏まえたコンテンツの展開が再来訪につながる傾向がある。

狭山丘陵への来訪以降は、「是非また行きたい」16.7%、「また行きたい」52.5%となっており、合計して69.2%と約7割が再訪の意向を示している。一方で、「行きたくない」の合計は4.6%に過ぎず、来訪者の満足度は高いことがうかがえる。

②ヒアリング調査

狭山自然公園を代表する2つの都立公園「狭山公園」「野山北・六道山公園」のイベント体験者にヒアリングすることで、顕在需要の傾向を探る。

【調査内容】

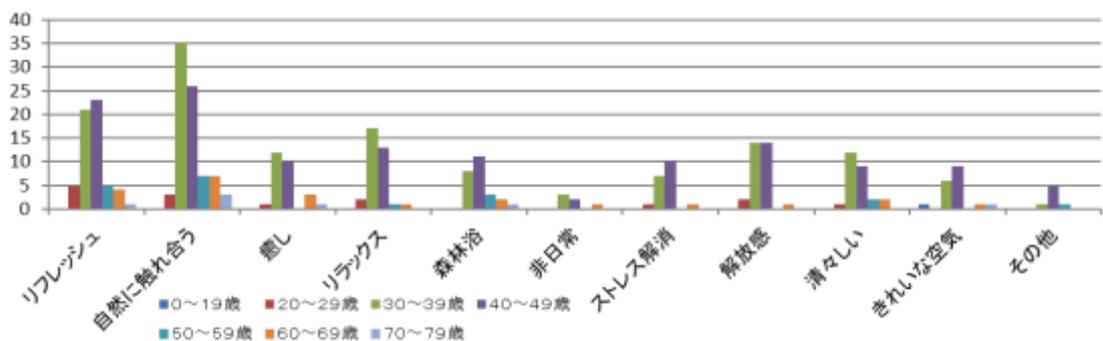
・回収サンプル数

実施日	サンプル抽出数	天気
10月1日(日)	11枚	雨
10月8日(日)	16枚	雨
10月15日(日)	12枚	雨
11月3日(金・祝)	104枚	晴
11月4日(土)		晴
11月5日(日)		晴

【調査結果分析(抜粋)】

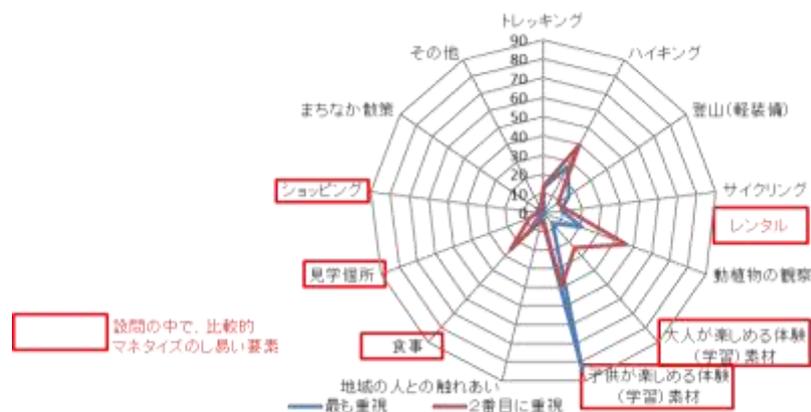
◆狭山丘陵に期待すること

自然の持つ「リフレッシュ効果」、「自然そのものとの触れ合い」を選択される方が多い。PRのキーワードとしての活用素地が高いと考える。



◆自然観光で重視すること

自然と触れ合うことを前提(大きくマネタイズが難しい)となり、2番目以降の部分が必要と考えた2設問であったが、親子向けイベント来訪者が多く、少しバイアスがかかった可能性がある。最も重視する項目に「子供が楽しめる体験」に回答が集中しており、2番目に「ハイキング」や「動植物の観察」となった。継続的な事業化には、地域の何処でお金を落として貰うか【チャージポイント】が重要となってくる。



◆来訪手段

1次交通・2次交通の繋ぎは中長期的な検証が必要と考える。その他の回答は、「30代：東村山市在住：ランニング」「40代：横浜市在住：オートバイ」となり、当アンケートの少数派となるが、検討すべき手段である。

最も回答の多いアクセス手段は「自家用車」、近隣居住者の「自転車」「徒歩」と続く。公共交通利用者は全体の17%と、狭山丘陵への移動手段としてのアンケート意向は低い。

③カウント調査

狭山自然公園を代表する4つの都立公園の来訪者動向を調査することで、その人流の導線がどのような傾向を示すかによって、狭山丘陵を広域に回遊していただく可能性を探る。

【調査内容】

狭山丘陵を大きく2地域に分けて、2日間に渡り午前9時～午後5時までに、上記個所を入退場した人数を数取器でカウントした。また、外国人の来場カウントも実施した。

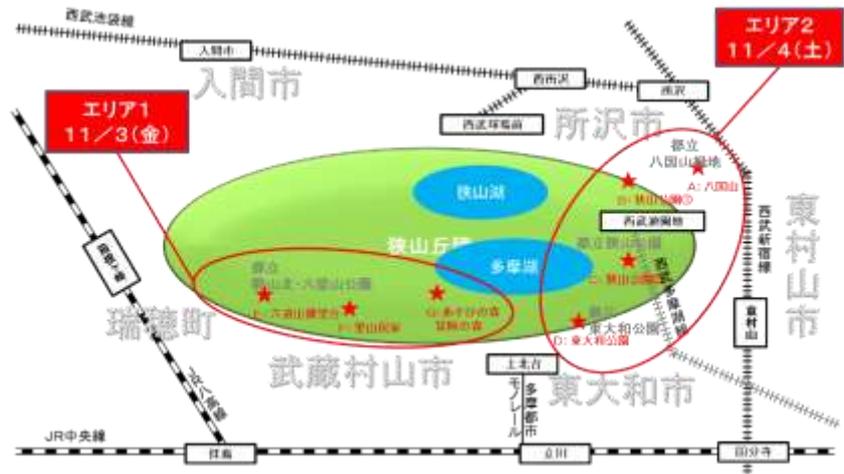
画像修正中

○平成29年11月3日(金・祝)

六道山公園展望塔、里山民家、
あそびの森・冒険の森

○平成29年11月4日(土)

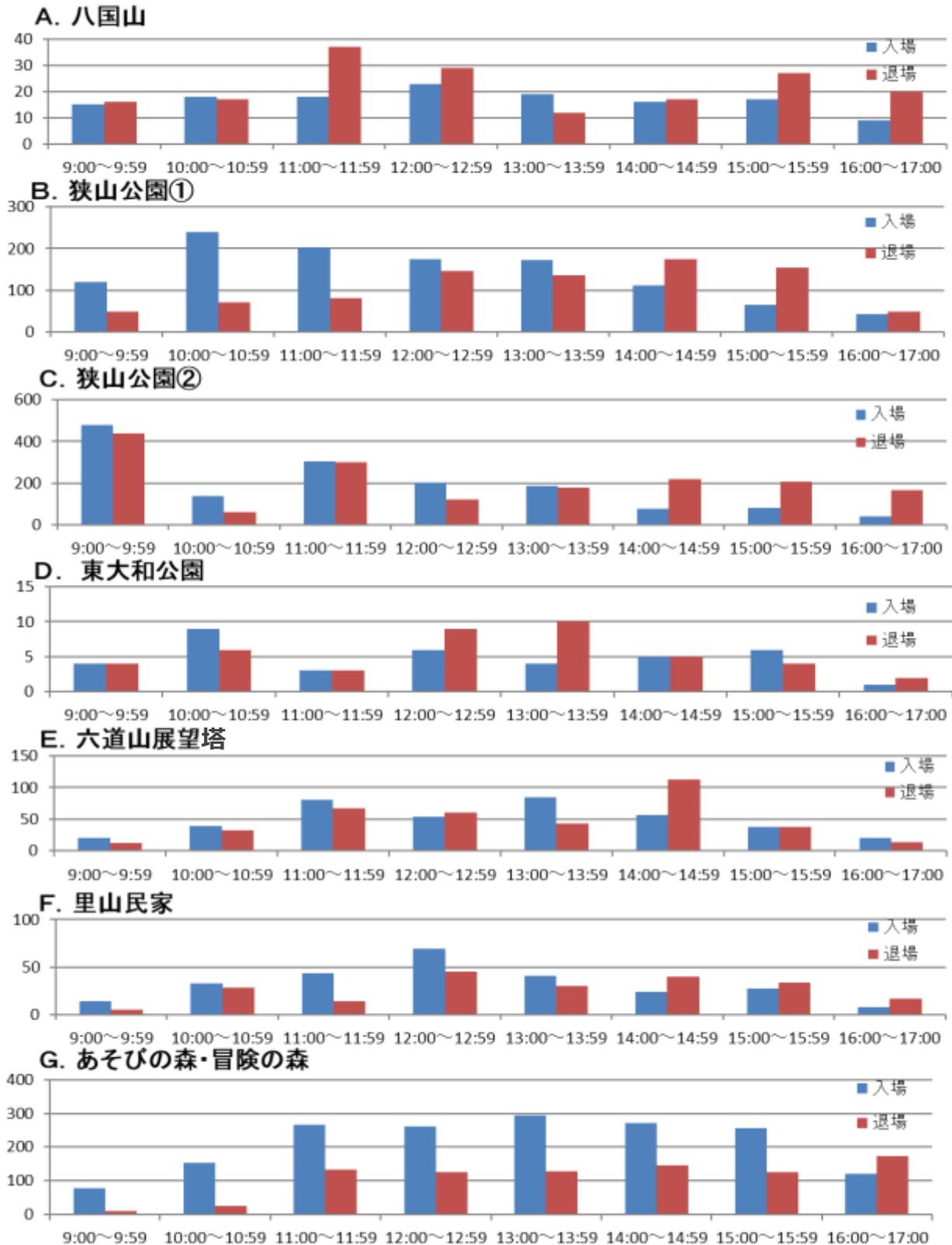
八国山緑地、狭山公園①②、東
大和公園



【調査結果】

◆時間別来場者数

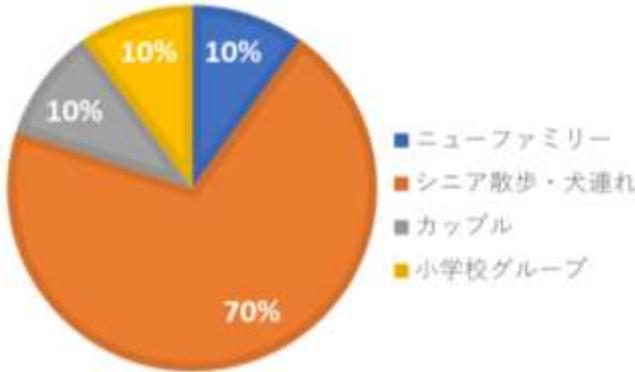
狭山公園①では、午前中に入場者が多くの時間を滞在して、午後に退場していることがわかる。また、入退場者総数では、最も多いのが狭山公園、次いで、遊びの森・冒険の森、六道山展望塔の順であった。



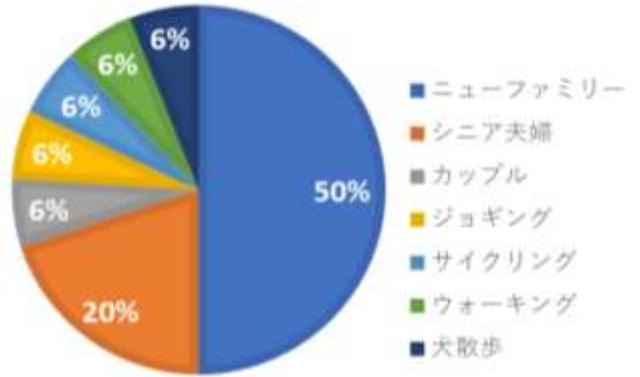
◆来場者の動向

八国山緑地は、シニア散歩・犬連れが70%を超えているのに対し、遊びの森・冒険の森や里山民家、狭山公園はニューファミリーが50~70%を占めていた。このことから、公園内に遊具や見学施設で体験ができる公園は家族連れが来訪しやすく、逆に遊歩道だけの公園は、散策や散歩することを目的にした近隣のシニア層が来訪する傾向があると考えられる。

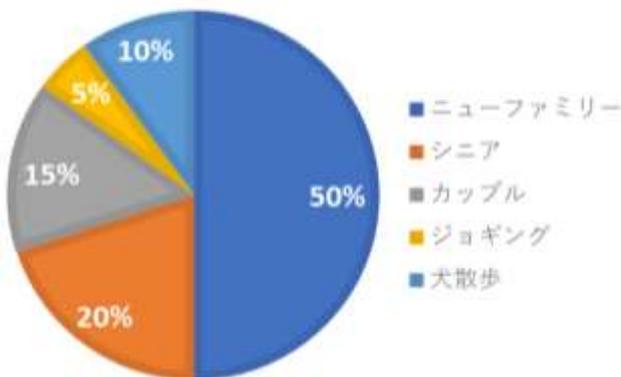
11月4日（土）八国山緑地



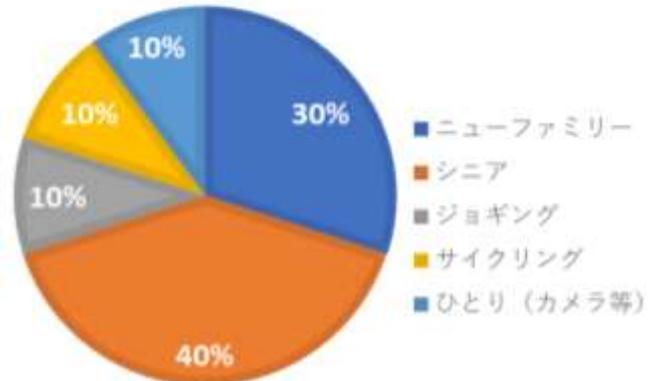
11月4日（土）狭山公園①



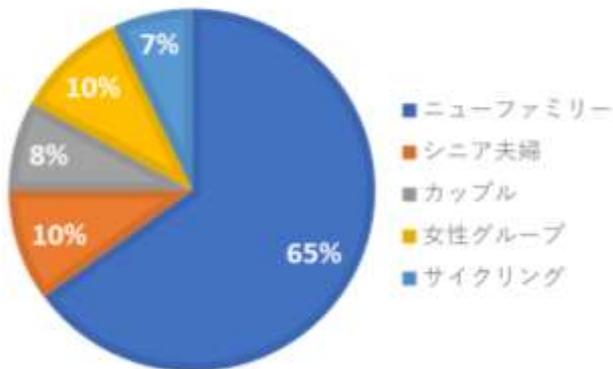
11月4日（土）狭山公園②



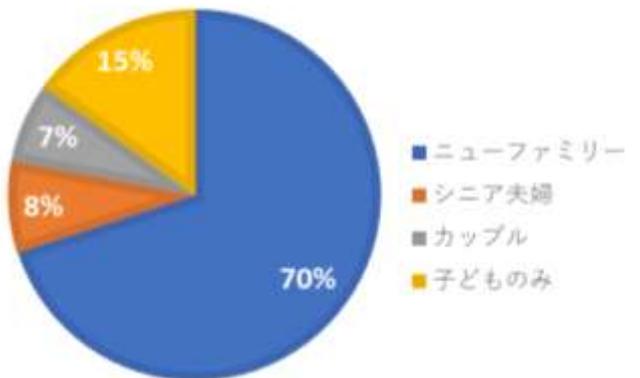
11月3日（金・祝）六道山展望塔



11月3日（金・祝）里山民家



11月3日（金・祝）遊びの森・冒険の森



4) 民間事業者等へのヒアリング

狭山丘陵に関わる民間事業者に対してヒアリング調査を行い、狭山丘陵の観光の現状・課題等について把握した。

【対象者】

市町	事業者
武蔵村山市	村山うどんの会／小林農園／下田農園／本比園製茶／武蔵村山市商工会
東村山市	相羽建設株式会社／東京交通株式会社／東村山市商工会
瑞穂町	ナカザワジム／瑞穂町商工会・観光協会／株式会社コトリコ
東大和市	貯水池 鳥山／多摩モノレール株式会社／BIG BOX 東大和／東大和市商工会
所沢市	西武鉄道株式会社／株式会社 Corot／観光協会
入間市	観光協会
関係団体	西武・狭山丘陵パートナーズ

【調査結果概要】

◆事業者の活動について

- ・事業者は、各々、地域活動や幅広く事業展開も行っている一方で、地域内および近隣市町の他事業者の取組を知らない状況であり、他地域の活動について興味を持っている。
- ・狭山茶について、手もみ体験やお茶を使った加工品等観光客向けの商品が進められている。
- ・食について、武蔵野うどんは各市町で特徴があり、地域ごとの魅力を上手く発信できると良い。

◆ターゲットについて

- ・みかん狩り等の体験プログラムについて、ファミリー層が多く、多摩近郊から車で訪れる人が多い。
- ・フォトゲーニングについて、コアなファンがおり、遠方からの参加者も多く、ニーズがある。
- ・野鳥の観測をターゲットとしたニーズがある。
- ・周辺に駐車場がないため、電車で来る方層が多く、また、高齢者が多いイメージである。
- ・宿泊施設から、外国人がサイクリングしたいという問い合わせがあり、サイクリングのニーズがある。
- ・外国人観光客が増えつつあり、インバウンドを受け入れる体制が必要である。
- ・ウォーキングイベントでは多くの参加者が見込まれ、主にアクティブシニア層が多い。

◆多様な事業者の連携について

- ・狭山丘陵での組織体をきちんと構築する必要がある。そして、狭山丘陵の中核をどこに位置付け、観光客を受け入れていくのか考えるべきである。
- ・狭山丘陵としてのまとまりを意識した取組が必要である。
- ・狭山丘陵でのイベントで多くの事業者、団体、住民が参加できる仕組みづくりが必要である。

◆観光プログラムやイベントについて

- ・地域資源を活用した商品づくりを更に展開していくことが必要である。
- ・狭山丘陵のイベントについて、特に、飲食の出店については、どの程度の集客が見込まれるか想定できないと出店しづらい。
- ・お店に来るお客さんが狭山丘陵や地域資源を知らない場合が多い。
- ・民間企業の利益重視の地域貢献ビジネスの取組とボランティア団体の郷土愛に基づく取組に観光への意識のギャップがある。

◆受入体制について

- ・サイクリングの受入環境の整備が必要である。そのためには、サイクリングスポットの協力者を増やし、また、自転車が安全に走ることのできる道づくりを推進することが必要である。
- ・狭山公園は、狭山丘陵の玄関口としての位置づけがあり、宿泊等ができる場が必要である。
- ・積極的に観光客を受け入れていくためには、駐車場の整備が不可欠である。

◆情報発信について

- ・事業者は独自にホームページやSNS等で発信しており、また、口コミ等による効果も大きい。
- ・個人の情報発信では限界があるため、地域内外問わず5市1町で相互に情報発信することで、より多くの人に周知できる。
- ・狭山丘陵のイメージアップにつながるコンセプトづくりが必要である。

3-4. 狭山丘陵連携における課題

平成 29 年度の基礎調査の内容を踏まえ、各市町の職員で構成される作業部会や事業者ヒアリング等を行い、狭山丘陵連携における課題を整理した。

(1) 受入体制の課題

① 狭山丘陵周辺自治体の連携の必要性

これまで各市町では、独自に狭山丘陵に関連する取組みを進めてきた。効果的に観光客の誘致を行うために各市町にまたがるプログラムや、イベントの同時開催により、より集客力のある取組みが考えられる。また、狭山丘陵の来訪者にとって、交通などの環境整備はシームレスであること、共通のルールによる情報・案内が望ましい。さらに、狭山丘陵に関連する観光事業の推進における予算の確保、人的資源の確保についても各市町連携による効果が考えられる。

そこで、各市町が連携するための組織体制が必要である。狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会での取組みを継承し、5市1町が継続的につながる組織の構築により、各市町で推進する取組みの共有、連携できる取組みの検討、連携にあたっての協議を行う。

② 狭山丘陵における多様な事業者の連携の必要性

地域事業者や地域団体においては、各々で地域活動や事業展開を行っている。一方で、地域内及び近隣市町の他事業者の取組を知らない状況がある。地域事業者や団体においても、互いの取組みを共有し、プログラムやイベントでは連携によりそれぞれの魅力を高めること、観光客・地域住民への発信力を高めることができると考える。

今後、事業者が集まる場を設け、狭山丘陵観光振興に関わる人たちの意識の共有と、多様な事業者等の連携による付加価値創出のための仕組みづくりが必要である。

平成 30 年度 事業者同士の意見交換会の実施

狭山丘陵における多様な事業者の連携を図るために、5市1町で活動している民間事業者同士が集まり、自身の活動紹介や狭山丘陵連携における課題などの意見交換を行った。

これにより、狭山丘陵観光振興に関わる意識の共有を図りつつあり、今後も継続的に事業者同士の意見交換会を実施し、事業連携のできる仕組みをつくることが期待される。



③ 狭山丘陵の多様な関係性の役割分担の必要性

狭山丘陵の連携を推進していくために、前述の通り、自治体との連携および事業者との連携の課題がある。各主体が以下のような役割分担を持ち、狭山丘陵の観光振興の受入体制を構築することが必要である。

狭山丘陵の多様な関係性の役割分担

主体	役割
自治体	・市町連携による環境整備、協働でのマーケティング・プロモーション ・事業者・住民への周知、意識情勢
事業者	・狭山丘陵の資源を活用したプログラム・イベントの実践、環境整備や情報発信 ・周辺市町の事業者との情報共有・連携協議
住民・関係者	・狭山丘陵の積極的な利用、魅力の口コミ発信、取組への協力

(2) 誘客に向けたマーケティング・情報発信の連携

各市町において、狭山丘陵に関する情報発信を行っているが、来訪者にとって魅力の高い観光になっていないのが現状である。個性と魅力のある観光エリアを形成していくために、「狭山丘陵」のブランドイメージの向上が求められる。そのためにも、各市町が連携した、また一元的な情報発信が必要となる。

また、全国各地で観光の取組が行われ、旅行者のニーズも多様になってきたことから、単に狭山丘陵の魅力の情報発信するのではなく、狭山丘陵の魅力を来訪者の誘客にあたり、来訪者目線でのコンテンツの造成が必要となる。そのため、マーケティング調査を行い、来訪者の観光ニーズを把握するとともに、潜在的なニーズを踏まえていくことが重要となる。そして、来訪者の趣味趣向等に合わせた情報発信の内容やコンテンツを用いて、効果的に誘客、観光消費につなげていく。

(3) 狭山丘陵における観光客の受入環境の整備の連携

狭山丘陵には、豊かな自然が残されていることから、自然の“保存・活用”の考え方をもとに、来訪者が入ることができる場所や難しい場所の住み分けを行いながら、自然との共生を図った取組を展開していく必要がある。

まずは、狭山丘陵の自然を維持していく必要がある。そして、活用の面では、来訪者が利用しやすい環境づくりを進めていくために、統一的なサインや狭山丘陵との2次交通の充実、駐車場の整備等といった受入環境の整備や仕組みの構築が求められる。

その他にも、近年東京都においてインバウンド観光客の増加が見込まれ、狭山丘陵周辺にも気づかずうちにインバウンド観光客が来ることを想定される。インバウンド観光客が来た場合、自然や景観を荒らされたり、地域の暮らしを維持できない事態にもなりかねないことから、観光や地域情報の多言語化等といったインバウンド観光客に対応できる受入環境を各市町で連携を図りながら、今から進めていく必要がある。

(4) 狭山丘陵の多様な資源を活用したプログラム・イベントの連携

これまで各市町で狭山丘陵を活用したコンテンツによる情報発信やブランド推進を行ってきた。しかし、「狭山丘陵」エリアの範囲が広大であることから、各市町やエリアが単体での情報発信にとどまり、「狭山丘陵」全体での情報発信やイメージの形成まで至らず、認知度の向上につながっていない。また、各市町の単体の観光コンテンツの魅力度が弱いことから、大きな誘客に至っていない現状である。

そのため、「狭山丘陵」全体で観光客を誘客する仕組みとして、各市町で展開している既存のプログラムやイベントの中でフォトコンテストやウォーキングイベント等同じテーマで行われているものについては、市町境に関わらず、「狭山丘陵」全体のイメージや認知度の向上に資するよう、各市町が連携した取組を展開する必要がある。これらの取組によって、それぞれの取組や資源を相互に結び付け、個々の魅力を相乗させ増強することができるとともに、狭山丘陵での滞在時間が延伸され、地域に落ちるお金も生まれ、地域経済の活性化にも寄与する。

また今後、既存のものだけではなく、それぞれの地域性を活かした資源等を活かして、新たに各市町が連携し、「狭山丘陵」を核とした取組を企画・実施することで、狭山丘陵全体への波及にも寄与することが考えられる。

そして、地域で稼ぐためには、民間事業者の参画が不可欠である。地域の商工や飲食店をはじめ、交通事業者、体験プログラム等の民間事業者と連携を図り、一体的な取組とする必要がある。

(5) シビックプライドの醸成

観光地域づくりを効果的に進めるためには、地域住民が誇りや愛着を持ち、この地域に住み続けたいという想いを創出する必要がある。そのために、地域の魅力を高めながら、その魅力に気づききっかけを創出し、狭山丘陵エリアに関わる人や土地の文化、住みやすさや心地よさ、美しさや楽しさ等、様々な価値を伝えていくことが必要である。

第4章 本プランの目指すべき方向性

4-1. コンセプト・目指すべき方向性

狭山丘陵エリアにおける課題を踏まえ、狭山丘陵に関わる自治体や多様な事業者・関係者が連携し、狭山丘陵のブランドイメージの向上、そして狭山丘陵周辺地域の「地域魅力」の向上を図るために、狭山丘陵エリアの観光地域づくりのコンセプトと想定するターゲット、目指すべき方向性を以下のように定める。

コンセプト

**「訪れてみたい！」「住みたい！」「住んでよかった！」「住み続けたい！」
魅力あふれる狭山丘陵**

ターゲット

重点とすべきターゲット層：近隣在住のファミリー層

<狭山丘陵エリアの観光振興に向けたターゲット層>

コンセプト	ターゲット層
「訪れてみたい」「住みたい」 の魅力あるエリア	○今いる層：多摩地域在住者、首都圏在住者 ○新しく期待する層：インバウンド、サイクリング利用者、 写真撮影趣味の層等
「住んでよかった」「住み続け たい」の魅力あるエリア	○今いる層：狭山丘陵近隣在住者（ファミリー層、シニア層） ○新しく期待する層：狭山丘陵近隣在住者（女性、外国人）

目指すべき方向性

- I 広域連携により、地域資源の磨き上げを進め、
狭山丘陵エリアの魅力向上に繋がります。
- II 広域連携により、稼ぐ地域を進め、地域産業の活性化に繋がります。

基本戦略1 推進体制の構築

基本戦略2 誘客に向けたマーケティング・情報発信の連携

基本戦略3 狭山丘陵観光エリアの受入環境の整備の連携

基本戦略4 狭山丘陵の多様な資源を活用したプログラム・イベントの連携

基本戦略5 狭山丘陵エリアのシビックプライドの醸成

4 - 2. 基本戦略

基本戦略1 推進体制の構築

行政、観光関連団体、観光関連事業者、住民・住民団体が目指すべき将来像を共通認識し、それぞれが果たすべき役割のもと、相互に連携した協働の取組を進めるために、狭山丘陵に関わるファンを増やし、各関係主体が連携した体制作りを進める。

【目標指標】

指標	把握方法	目標
狭山丘陵観光連携事業 協力事業者数	実態について事務局で把握	経年での数値向上

基本戦略2 誘客に向けたマーケティング・情報発信の連携

狭山丘陵エリア（5市1町）でのニーズや認知度などの分析情報や観光動向等の統計情報を共有し、狭山丘陵の誘客を促進するためのターゲット市場を分析・戦略立案、プロモーション等で積極的な活用とブランド化の推進を図る。

【目標指標】

指標	把握方法	目標
狭山丘陵の認知度	アンケート調査により把握	経年での数値向上
狭山丘陵連携事業のメディア表出数	事務局で情報収集	経年での数値向上

基本戦略3 狭山丘陵観光エリアの受入環境の整備の連携

安全で快適な観光地域づくりを推進するため、交通安全・バリアフリー対策、自転車通行環境の整備などにより、暮らしの確かな安全を確保するための基盤づくりを地域と連携して推進する。

また、各々の住民、事業者、団体が狭山丘陵エリアで共生するために、里山保全の普及啓発の取組を推進する。

地域交通事業者と連携し、5市1町の広域連携によって、サイクリング等の2次交通の利便性向上を図り、また、多言語化の対応等インバウンドに対応するための受入体制の整備に取り組む。

【目標指標】

指標	把握方法	目標
インフラに関する満足度	来訪者アンケートにより把握	経年での数値向上

基本戦略4 狭山丘陵の多様な資源を活用したプログラム・イベントの連携

各市町が連携し、「狭山丘陵」を核とした観光資源の商品を充実させることで、「狭山丘陵」全体のイメージや認知度の向上を図り、地域経済の活性化を図る。

市町で展開している既存のプログラムやイベントについて、市町境に関わらず、「狭山丘陵」全体のイメージや認知度の向上に資するよう、各市町が連携した取組を展開することで、観光客の誘客促進を図る。

「狭山丘陵」全体で観光客を誘客する仕組みとして、市町で連携し、狭山丘陵全体で、周遊ルートを形成・発信することにより、テーマに応じたターゲット層のさらなる誘客を図るとともに、狭山丘陵全体のイメージや認知度向上を図る。

【目標指標】

指標	把握方法	目標
プログラム・イベントの満足度	来訪者アンケートにより把握	経年での数値向上
プログラム・イベント数	事務局にて情報収集	経年での数値向上

基本戦略5 狭山丘陵エリアのシビックプライドの醸成

狭山丘陵広域連携の主体となる住民や事業者、団体の狭山丘陵観光振興の機運醸成を進めるための学習機会を増やすことにより、シビックプライドの醸成を図り、狭山丘陵エリアに住み続けたいと思う方を増やす。

【目標指標】

指標	把握方法	目標
5市1町の住民の定住意向	各自治体での住民意識調査から把握	経年での数値向上

4-3. 推進体制

持続可能な観光地域づくりを進めていくため、各市町や民間事業者等の多様な主体が連携したプラットフォームとなる組織を構築する。プラットフォームの構築により、関わる人たちの意識の共有が図られ、これまで単独で行ってきた取組が多様な主体と連携することで、更なる付加価値を創出することができる。

① 自治体による公的な連携組織

公的な立場から、自治体間の連携を行うために、各自治体による会議体を継続的に持つことが有効だと考える。狭山丘陵における各自治体での取組についての情報共有を図ることから、公的な役割としては狭山丘陵の観光受け入れ環境として、環境保全や交通の充実、統一的な情報の整備に向けた取組、広域連携による共同でのマーケティングやプロモーションの実施、人材育成の取組、計画に基づいた事業の進捗管理などが必要な取組である。

公共公益的な取組については、行政施策として推進することを連携組織として共有・合意形成を図る。

【参加】5市1町観光部門担当、狭山丘陵内公園指定管理者

② 民間事業者主体の実働組織

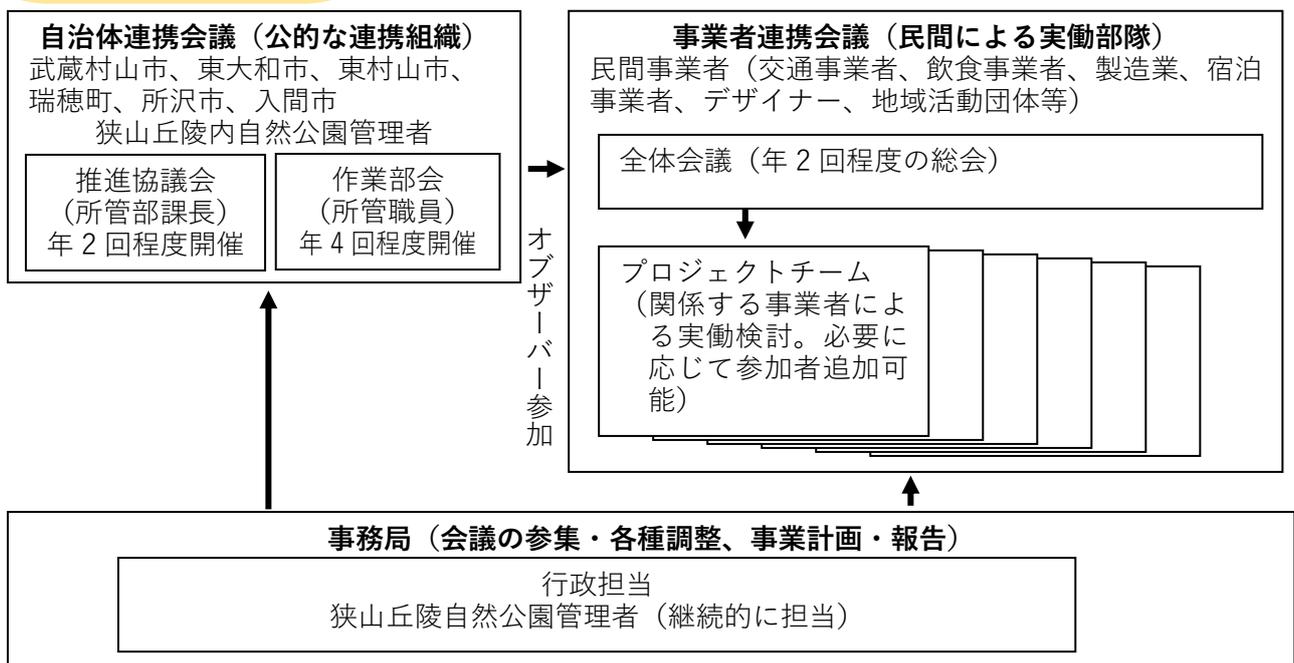
公的な連携組織に対して、民間事業者や地域団体による連携体を構築する。狭山丘陵広域連携についての具体的な事業推進、特にお客様を受け入れるプログラムやイベント、資源活用による魅力創出については、民間事業者や地域団体が主体となることが有効だと考える。

各エリアでプログラムやサービス提供を行う事業者自らが、情報共有のもとで、互いの連携を図りながら事業推進を行うため、連携会議として全体の共有を図ることに加え、イベントやプログラム企画、情報戦略などワーキンググループでの事業推進によりスピード感のある取組推進を図る。

【参加】民間事業者、オブザーバーとして自治体連携会議のメンバー参加

組織への参画は理念の共有のもとで随時可能な体制とすることで、連携を広げる取組を想定。

推進体制イメージ



4-4. 施策体系

「訪れてみたい!」「住みたい!」「住んでてよかった!」「住み続けたい!」
魅力あふれる狭山丘陵

I 広域連携により、地域資源の磨き上げを進め、
狭山丘陵エリアの魅力向上に繋げる

II 広域連携により、稼ぐ地域の進め、
地域産業の活性化に繋げる

基本戦略	施策
基本戦略1 推進体制の構築	施策1 観光振興を推進する連携体制の強化 (1) 自治体連携会議の仕組み構築 (2) 事業者連携会議の仕組み構築
基本戦略2 誘客に向けたマーケティング・情報発信の連携	施策1 狭山丘陵ブランド化の推進 (1) 狭山丘陵観光振興に向けたマーケティング (2) 狭山丘陵を活用したイメージ戦略の展開 (3) 広域連携による狭山丘陵のプロモーション 施策2 狭山丘陵観光エリアの情報発信の連携 (1) 観光情報の相互発信の連携 (2) 広域連携による協働のプロモーション
基本戦略3 狭山丘陵観光エリアの受入環境の整備の連携	施策1 安全で快適な環境整備の推進 (1) 自然環境に配慮した環境づくり (2) 安心安全な環境づくり 施策2 利用しやすい交通環境の連携推進 (1) 交通情報および観光サインの充実 (2) 狭山丘陵エリアの交通ネットワークの充実 施策3 インバウンドに対応した観光連携の推進 (1) 観光情報の多言語化の連携 (2) 観光従事者等の外国人接客力向上
基本戦略4 狭山丘陵の多様な資源を活用したプログラム・イベントの連携	施策1 狭山丘陵ならではの観光資源の魅力向上 (1) 滞在型の観光商品プログラムの造成 (2) 食および特産品の充実 施策2 各種イベントでの市町を超えた連携の推進 (1) 各地域の既存イベントとの連携促進 (2) 広域連携イベントの開催 施策3 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成 (1) 狭山丘陵を核とした広域観光ルートの形成
基本戦略5 狭山丘陵エリアのシビックプライドの醸成	施策1 狭山丘陵エリアのシビックプライドの醸成 (1) 住民や事業者の狭山丘陵観光意識の醸成 (2) 観光資源となる歴史、文化に関する学習機会の提供

第5章 観光連携に係る具体的な施策

基本戦略 1 推進体制の構築

◇施策 1 観光振興を推進する連携体制の強化

狭山丘陵の観光連携を推進するために、行政、観光関連団体、観光関連事業者、住民・住民団体が目指すべき将来像を共通認識し、それぞれが果たすべき役割のもと、相互に連携、協力する協働の取組を進めていく。また、各関係主体が連携した体制作りを進め、広域的な連携に構築していく。

【施策実現の手段（基本事業）】

(1) 自治体連携会議の仕組み構築

・行政担当による公的な組織として、自治体および自然公園管理者による会議組織の設立

狭山丘陵の観光連携を推進するために、各自治体等での取組の共有や連携の可能性を探るなど、行政担当による公的な組織として、自治体および自然公園管理者等が一同に介す会議組織を設立する。また、その会議組織による取組を進めていくために、事務局の役割を構築するとともに、広域的な連携に向け、効果的な仕組みの検討・構築を行う。

・設立した会議体を軸に、狭山丘陵の観光連携に係る具体的な事業の推進

各自治体での予算確保、5市1町による活動資金確保、住民や民間事業者への取組情報発信など、年間数回、会議を開催し、5市1町による連携施策の検討・共有、そして、具体事業の推進を図っていく。特に、交通・情報など受け入れ環境の整備やマーケティング・情報発信、シビックプライド醸成については、行政が主導する。

(2) 事業者連携会議の仕組み構築

・事業者による理念と情報の共有のための全体会議の開催

各自治体と事業者、そして事業者同士が、同じ方向性をもった取組を進められるよう、事業者同士が取組の理念や各事業者の取組の情報を共有するために、事業者が一同に介す全体会議を開催する。

・部会としてイベントやプログラム他施策推進の実働組織の立ち上げ・運営

スピード感のある取組の推進を図るため、イベントやプログラム企画、情報戦略などについては、民間事業者が主導できるワーキンググループでの事業の推進を行う。

・事業者参集による定期的な勉強会の開催

地域の魅力を高めるため、事業者の意識共有を図るため、事業者を対象とした、おもてなし力の向上や店舗の魅力向上、コンテンツの開発等に関する勉強会を定期的に開催する。

・観光連携の取組の発信、事業者のマッチングの機会創出による新たな事業者の参画

観光連携の取組を定期的に発信する。また事業者のマッチングの機会を創出することによって、新たな事業者を参画させ、更なる観光連携の取組を進める。

◇施策 1 狭山丘陵観光振興に向けたマーケティング

狭山丘陵エリアでのニーズや認知度などの分析情報や観光動向等の統計情報の分析を連携することで、狭山丘陵の誘客を促進するためのターゲット市場を分析・戦略立案、プロモーション等で積極的な活用を進める。

【施策実現の手段（基本事業）】

（1）定期的な観光ニーズの把握、ターゲット市場の分析

・ 定期的な来訪者調査の実施

主に、自治体連携会議の各自治体が主導し、定期的に来訪者を対象としたアンケート調査等を実施し、観光ニーズを把握し、事業者連携会議に共有し、プロジェクトチームでのコンテンツの構築のための基礎資料とする。また、定期的に調査を図ることで、観光連携の取組の効果の検証材料とする。

調査の実施にあたっては、事業者連携会議の事業者と連携を図り、各店舗での留め置きや回収等を行い、効果的に取り組む。

・ 既存イベントで実施するアンケート調査結果等の共有および分析

5市1町で開催する既存イベントにおいて、簡易的なアンケート調査を実施する。また、その調査結果については、事業者連携会議に共有し、プロジェクトチームでのコンテンツの構築のための基礎資料とする。

※調査項目については、同じ調査内容とすることで、5市1町での取組内容の比較や連携可能性を探ることができる基礎資料となる。

◇施策 2 狭山丘陵ブランド化の推進

狭山丘陵エリアの資源を活かし、狭山丘陵の魅力の強化、集客力の向上を図るとともに、各市町の観光資源とのネットワーク化を促進し、5市1町での観光連携を進めることで、狭山丘陵のブランド化を図る。

【施策実現の手段（基本事業）】

（1）狭山丘陵を活用したイメージ戦略の展開

・ 統一性のあるロゴデザインの開発および活用

狭山丘陵のブランドを発信していくために、自治体連携会議が主導し、ロゴデザインを開発し、そのロゴデザインを用いた商品等を展開するとともに、事業者が自由に活用することができる仕組みを構築し、統一的なブランドを発信する。

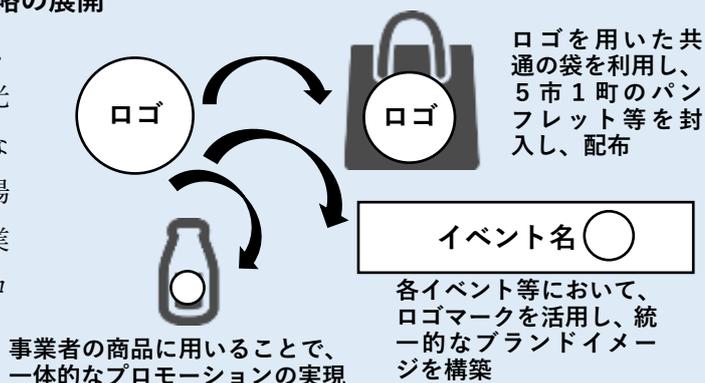
（2）広域連携による狭山丘陵のプロモーション

・ 広域連携の観光ガイドマップの作成

各自治体において、観光マップ等で用いる地図では、各自治体の市町境で区切るのではなく、5市1町等を入れた広域的な地図を用いることで、広域連携による狭山丘陵のプロモーションを推進する。また、5市1町の情報が盛り込まれた観光ガイドマップを作成することで、広域連携による観光推進を実現する。

【具体例】狭山丘陵を活用したイメージ戦略の展開

「狭山丘陵」の認知を広めていくために、統一となるロゴデザインなどを作成し、観光パンフレットやお土産パッケージの提示など、地域の飲食店やホテルなど、あらゆる場での活用ができるように自治体と民間事業者が連携して周知を進める。(実施内容：ロゴデザインの開発および活用)



◇施策3 狭山丘陵観光エリアの情報発信の連携

5市1町で各々取組んでいる情報発信やプロモーション事業において、ページのシェアなど、相互に連携した情報発信を行うことで、狭山丘陵および各地域の認知度向上と観光客誘客促進を図る。

【施策実現の手段（基本事業）】

(1) WEBを活用した効果的な情報発信の連携

・行政のSNSツールを活用した相互の情報シェア

5市1町が実施しているSNS等のツールを活用し、相互シェア等により、狭山丘陵エリアに関する活動や見どころ等を拡散する。

(2) 広域連携による効果的なプロモーション

・地域メディアや地域交通事業者等と連携した情報発信の推進

効果的なプロモーションを図るために、事業者連携会議等で仕組みを構築し、地域メディアや地域交通事業者等といった事業者と連携を図り、広域的な情報発信を推進する。

【具体例】WEBを活用した効果的な情報発信の連携

行政で発信しているFacebookやtwitter、instagramについて、5市1町が掲載する狭山丘陵の情報や地域の魅力、イベント情報等を相互に情報をシェアや「いいね！」をすることにより、各市町のもつフォロワーへの情報発信を通じてPRの波及効果を図る。各自自治体がフォローをして欲しい記事について、プラットフォームの中で情報提供・依頼することにより、各々が発信できる仕組みを構築する。(実施内容：相互発信の仕組み構築)

◇施策1 安全で快適な環境づくりの推進

良好な観光地域づくりを実現していくために、地域の核となる狭山丘陵の重要な自然環境の保全・回復を図り、狭山丘陵の価値をさらに高めていく。

狭山丘陵エリアで自然と共生した地域づくりを進めていくために、狭山丘陵の自然環境や里山保全の活動の普及啓発を進め、狭山丘陵の自然保護・保全活動を中心とした団体をはじめ、地域住民や事業者、行政が連携し、取組を展開していく。

また、誰もが安全・安心で快適な観光地域の環境を整えていくために、5市1町が連携し、バリアフリーやユニバーサルデザインの対策、自転車が快適に通行できる環境の整備等の取組を進めていく。

【施策実現の手段（基本事業）】

(1) 自然環境に配慮した環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・狭山丘陵の自然環境保全活動の推進 主に各自治体や環境保全活動団体等が中心となり、地域住民や事業者等と連携を図り、自然環境の保全活動を推進する。 ・狭山丘陵の自然環境や里山保全の活動の普及啓発 主に各自治体や環境保全活動団体等が積極的に活動の普及啓発を行う。
(2) 安心安全な環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が安全・安心に周遊することができる環境整備 主に各自治体や公園の指定管理者等が中心となり、狭山丘陵エリアのバリアフリーやユニバーサルデザインの対応等を行い、安全・安心な環境づくりを推進する。推進にあたって、各市町共通のルール作りに取り組む。 ・広域連携の道づくりの推進に関する検討 主に各自治体や公園の指定管理者が中心となり、狭山丘陵エリアの周遊ルートや道等の点検を行い、危険箇所等を事前に発見し、その対応を行い、受入環境の整備を図る。

◇施策2 利用しやすい交通環境の連携推進

狭山丘陵エリアへの誘客、そして地域の回遊性を高めていくため、自治体や地域交通事業者等の連携を推進し、観光客の利便性の高い交通情報や観光サインの充実を図る。

また、貴重な自然が広がり、首都圏の水がめである多摩湖（村山貯水池）のほぼ全周にわたって設置された多摩湖自転車道や武蔵野の路が整備されていることから、自転車等を活用した広域的なネットワークの整備を図る。

【施策実現の手段（基本事業）】

(1) 交通情報および観光サインの充実
<ul style="list-style-type: none"> ・1次交通および2次交通の利便性向上にむけた情報発信手法の検討 各自治体や地域交通事業者が連携し、狭山丘陵エリアへの誘客促進や広域周遊の実現に向け、公共交通（コミュニティバスやタクシー、鉄道等）の利便性向上にむけた情報発信手法について整理、検討を行う。

・観光案内・サインの充実の検討

各自治体が連携し、広域的な観光案内を充実するため、紙媒体の案内マップ等において、単体の市町域の表示だけではなく、狭山丘陵エリアとして、5市1町まで含まれる表示とするなど、一体的な観光案内を行う。また、サインについても、狭山丘陵エリアに関連するものについては、統一的なロゴマークの掲出や色の統一等を図る検討を進めていく。

(2) 狭山丘陵エリアの交通ネットワークの充実

・広域でのレンタサイクル事業の検討

主に地域のサイクルショップやレンタサイクル事業を行っている事業者が連携し、狭山丘陵エリアにおいて、自由に乗り捨てすることができる仕組み等を構築し、自走化の検討を行う。

・イベント実施の地域交通事業者と連携した送迎の検討

狭山丘陵エリア内で開催するイベント時において、狭山丘陵周辺の駐車場は限られていることから、自治体や地域交通事業者が連携し、主要駅からの送迎等を検討する。

【具体例】広域連携によるレンタサイクル事業の推進

更なるサイクリングの需要を喚起するために、地域のサイクルショップの事業者との連携を図り、自転車等を活用し、狭山丘陵を周遊することができる仕組みの検討を行う。

そのために、地域のサイクルショップの事業者等を集め、狭山丘陵エリアでの乗り捨てや修理・メンテナンスの実施等の体制構築の検討を進めていく。

■主なサイクルショップの事業者数

自治体名	事業者数
武蔵村山市	9
東大和市	9
東村山市	15
瑞穂町	3
所沢市	12
入間市	15

【具体例】シェアサイクル事業の導入の検討

シェアサイクルサービスとして、利用者が自転車を借用・返却できる「ステーション」の検索から決済までの一連の手続きを、スマートフォンやパソコンで簡単に行うことができる。また、「ステーション」であればどこでも自転車を返却することが可能である。



◇施策3 インバウンドに対応した観光連携の推進

年々増加している訪日外国人旅行者をターゲットに、5市1町による広域連携により、多言語化の推進等のインバウンドに対応するための受入体制の整備に取り組む。

【施策実現の手段（基本事業）】

（1）観光情報の多言語化の連携

・多言語表記の推進

訪日外国人の受入れに対応していくために、多言語表記の推進等を図る。国や東京都・埼玉県が発行している方針やマニュアル等を活用し、主に自治体のWEBページや紙媒体等の整備を進めていく。また、自治体より、各事業者への働きかけなども併せて進める。

<国>小売業の店内の多言語表示ガイドライン（経済産業省）／外国人向け多言語説明資料（診療申込書、入院申込書、問診票等）（厚生労働省）／文化財の英語解説のあり方について（文化庁・観光庁）等

<東京都>国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針／東京みちしるべ 2020～誰にでもわかりやすい道路案内標識～等

<埼玉県>これで解決！外国人おもてなしガイド 多言語表示・Wi-Fi導入編

・5市1町の広域連携による対応言語数の統一化

狭山丘陵エリアで訪日外国人を受け入れていくために、5市1町がバラバラな言語で多言語対応を行うのではなく、広域エリアとして各自治体が連携し、必要最低限の言語を決め、対応を進める。

（2）観光従事者等のガイド育成

・外国人観光客に対するおもてなし・ガイドの講習会の実施

外国人観光客の満足度を高めるために、自治体連携会議が主導し、事業者連携会議のメンバーを対象としたおもてなし力の向上やガイドの育成を図るための講習会を開催する。

◇施策1 狭山丘陵ならではの観光資源の魅力向上

「狭山丘陵」全体で観光客を誘客する仕組みとして、それぞれの地域性を活かした資源等を活かして、新たに各市町が連携し、「狭山丘陵」を核とした観光資源の商品を充実させることで、「狭山丘陵」全体のイメージや認知度の向上を図り、地域経済の活性化を図る。具体的に、地域事業者と連携し、新たな滞在型の観光商品のプログラムをつくることで、狭山丘陵での滞在時間が延伸され、地域内消費を促し、地域経済の活性化を図る。

また、「食」や「特産品」について、各市町の商店および飲食店等が連携し、狭山丘陵エリアでの食および特産品を充実する。



【施策実現の手段（基本事業）】

(1) 滞在型の観光商品プログラムの造成

・狭山丘陵における観光資源の磨き上げ

事業者連携会議のプロジェクトチームにおいて、各分野の観光資源を活用した観光商品について、複数連携により魅力を高める方策を検討する。現在実施している取組みについて、関連事業者が参画し、来訪者の満足度を高めるよう、内容のブラッシュアップを図る。

・狭山丘陵での新たな滞在型の観光商品のプログラム造成

これまでに無かった新たなプログラムの造成を進める。観光客の滞在時間を延伸するために、事業者連携会議のプロジェクトチームにおいて、狭山丘陵の多様な資源を活用した滞在型の観光商品プログラムを検討・造成を行う。

(2) 食および特産品の充実

・各市町の商店および飲食店等の連携による狭山丘陵ならではのレシピや特産品の開発

事業者連携会議のプロジェクトチームにおいて、各事業者等が連携し、狭山丘陵ならではのレシピの開発や既存の特産品・土産品のブラッシュアップを図るとともに、新たな商品等の検討・開発を行う。

◇施策2 各種イベントでの市町を超えた連携の推進

各市町で展開している既存のプログラムやイベントについて、市町境に関わらず、「狭山丘陵」全体のイメージや認知度の向上に資するよう、各市町が連携した取組を展開することで、観光客の誘客促進を図る。

【施策実現の手段（基本事業）】

(1) 各地域の既存イベントとの連携促進

・各地域の既存イベントとの連携

自治体連携会議により、5市1町で行われている既存イベントを活用し、狭山丘陵の観光連携によるブースの出店や紙媒体等での情報発信など狭山丘陵の観光連携に係る情報発信を進める。

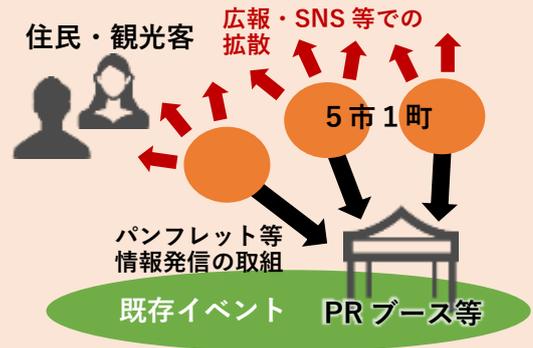
(2) 広域連携イベントの開催

・広域連携イベントの開催

地域資源のPRおよび各民間事業者の活躍の場を創出し、そして新たな観光客層の獲得を図るために、5市1町が連携した狭山丘陵を核としたイベントを開催する。

【具体例】既存イベントでの情報発信の連携

5市1町で展開している既存のプログラムやイベントにおいて、各市町が連携し、相互に広報やSNS等を用いた情報発信を行うと共に、事業者同士でも情報発信を展開することで、イベントの誘客を促進する。また、イベント時に狭山丘陵の魅力をPRすることで、狭山丘陵全体のイメージアップと認知度向上を図る。



<イベントの連携イメージ>

【具体例】オンパクの開催

観光連携プランを推進していくために、策定後、実働するための仕掛けとして、地域のやる気のある人材を発掘し、面白いこと、すぐやれることを実行に移すべく、「すぐに動ける体制づくり」が必要である。そのため、地域資源の発掘とコンテンツづくりを、事業者も交えた「オンパク式」の広域連携イベントの開催によって進める。

※オンパクとは、地域活性化の第一歩である「地域資源の発掘」や「人材の育成と連携」を効果的に実現する手法。地域資源を活かした小規模な体験交流型のプログラムを一定の期間内に集中的に提供するイベントであり、多くのまちづくり団体や小規模な事業者らが参加し多彩なプログラムを主体的に提供している。個々のプログラムを集積させてプロモーションすることにより、各々の事業者単独では困難な高い集客実績やサービスの品質向上を実現することができる。

◇施策3 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成

「狭山丘陵」全体で観光客を誘客する仕組みとして、各市町で展開している既存のプログラムやイベントの中でウォーキングルートやサイクリングルート等同じテーマで行われているものについて、市町で連携し、狭山丘陵全体で、周遊ルートを形成・発信することにより、テーマに応じたターゲット層のさらなる誘客を図るとともに、狭山丘陵全体のイメージや認知度向上を図る。

【施策実現の手段（基本事業）】

（1）狭山丘陵を核とした広域観光ルートの形成

・狭山丘陵を繋ぐ広域観光ルートづくりの検討

狭山丘陵全体での経済活動が活発化するよう、自治体連携会議や事業者連携会議のプロジェクトチームにおいて、狭山丘陵における既存のプログラムや散策ルート等を広域でつなぐ周遊ルートを検討・開発する。

（2）5市1町におけるテーマに応じた広域観光ルートの形成

・5市1町のテーマ別広域観光ルートづくりの検討

広域的な周遊ルートを開発するために、自治体連携会議や事業者連携会議のプロジェクトチームにおいて、写真や神社仏閣等といったテーマに応じたルートの検討・構築を行う、

<想定されるテーマ例>

遺跡探索／街道沿いの歴史散策／歴史遺産の足跡／玉川上水（狭山丘陵付近では分水の野火止水）跡の追体験／郷土食特産品「村山かてうどん」づくりの体験／狭山茶／自然散策／夏休み自由研究（いきもの、植物等の自然）など

◇施策1 狭山丘陵エリアの観光を支える人材育成

「狭山丘陵」に誇りと地域愛を持ち、ホスピタリティをもって、「狭山丘陵」の良さを広く紹介し、訪れる人がそれを楽しみ、人々が集い・交わる「住んでよし」「訪れてよし」の観光地域づくりを進めることが必要である。主体となる住民や事業者、団体の機運醸成を進めるための学習機会を増やすことで、狭山丘陵の魅力を発信できる人材を育成する。

【施策実現の手段（基本事業）】

（1）住民や事業者の狭山丘陵観光意識の醸成
<ul style="list-style-type: none"> ・狭山丘陵観光に関する交流会の開催 ・自治体、事業者等の情報交換やマッチングの場の創出
（2）観光資源となる歴史、文化に関する学習機会の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携による狭山丘陵の資源を活かした郷土学習、郷土教育の推進 ・学校の社会科見学等、子どもをターゲットとした学習機会の創出

【具体例】住民や事業者を巻き込んだ狭山丘陵に関する交流会の開催

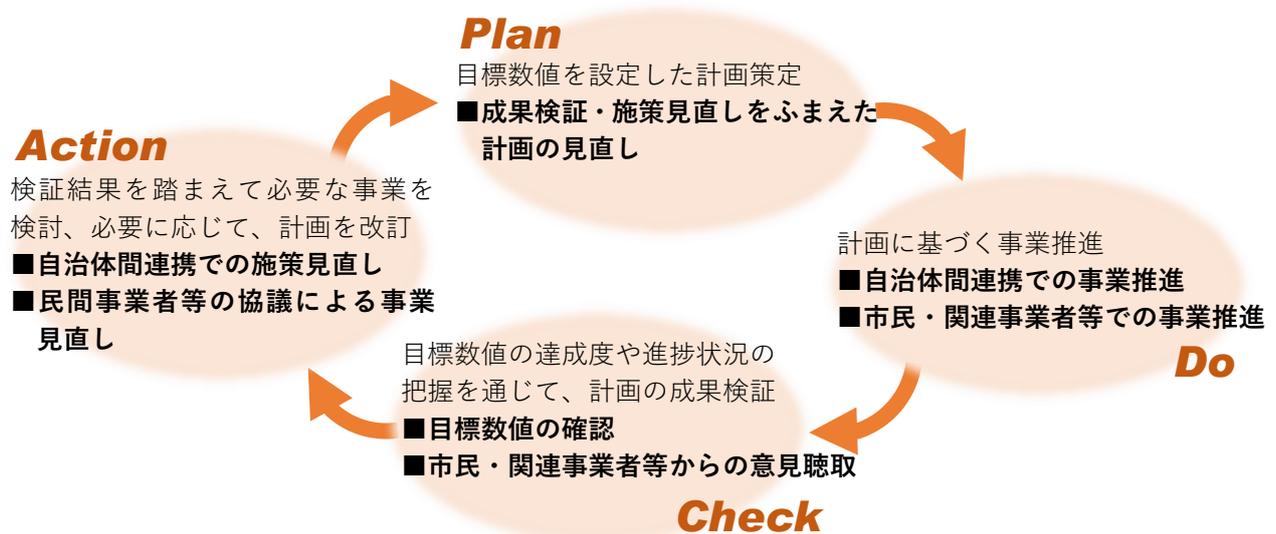
狭山丘陵の観光について、主体形成を進めていくための機運醸成を図るために、住民や事業者、団体との定期的な狭山丘陵観光の研修や交流会を行うことで、新たな地域資源の発掘や、異業種との情報交換や民間事業者の新たな事業展開のヒントとなる場を醸成する。また、機運醸成を図るとともに、プラットフォームへの参画を促す。

第6章 進捗管理

本プランの将来像を実現するためには、プランに基づく事業推進についての進捗管理を行う必要があります。PDCAサイクルのもとで、プランを実行し、それを進捗評価・改善、そして必要に計画を見直すプロセスを運用していき、必要に応じてプランの見直しを行っていく。

本プランの進捗評価及び進捗管理については、自治体連携会議の推進協議会において実施する。年2回程度の推進協議会において、推進内容の共有確認【Plan】と進捗評価・管理【Check】を行うとともに、作業部会（年4回程度）および民間事業者による事業者連携会議（必要に応じて開催）において、事業推進【Do】を図り、必要に応じて取り組み内容の見直し【Action】を行う。

【計画進捗評価の視点】



狭山丘陵観光連携プラン

発行 狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会

発行年月 平成 31 年 1 月
